

教育DXとデータ利活用に係る 文科省の取組について

令和5（2023）年9月

文部科学省 総合教育政策局
主任教育企画調整官／教育DX推進室長
藤原 志保



文部科学省

MEXT

MINISTRY OF EDUCATION,
CULTURE, SPORTS,
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

本日の流れ

1. 教育DXで目指す姿
2. 共通ルールの整備
3. 基盤的ツールの開発・運用
4. 教育データの分析・利活用の推進
5. おわりに



1. 教育DXで目指す姿



教育振興基本計画概要【抜粋】

令和5年6月16日 閣議決定

我が国の教育をめぐる現状・課題・展望

教育の普遍的な使命：学制150年、教育基本法の理念・目的・目標（不易）の実現のための、社会や時代の変化への対応（流行）

▶ 教育振興基本計画は予測困難な時代における教育の方向性を示す羅針盤となるものであり、教育は社会を牽引する駆動力の中核を担う営み

【社会の現状や変化】

- ・新型コロナウイルス感染症の拡大
- ・ロシアのウクライナ侵略による国際情勢の不安定化
- ・VUCAの時代（変動性、不確実性、複雑性、曖昧性）
- ・少子化・人口減少や高齢化
- ・グローバル化・地球規模課題
- ・DXの進展、AI・ロボット・グリーン（脱炭素）
- ・共生社会・社会的包摂
- ・精神的豊かさの重視（ウェルビーイング）
- ・18歳成年・こども基本法 等

第3期計画期間中の成果

- ・（初等中等教育）国際的に高い学力水準の維持、GIGAスクール構想、教職員定数改善
- ・（高等教育）教学マネジメントや質保証システムの確立、連携・統合のための体制整備
- ・（学校段階横断）教育費負担軽減による進学率向上、教育研究環境整備や耐震化 等

第3期計画期間中の課題

- ・コロナ禍でのグローバルな交流や体験活動の停滞
- ・不登校・いじめ重大事態等の増加
- ・学校の長時間勤務や教師不足
- ・地域の教育力の低下、家庭を取り巻く環境の変化
- ・高度専門人材の不足や労働生産性の低迷
- ・博士課程進学率の低さ 等

次期計画のコンセプト

2040年以降の社会を見据えた持続可能な社会の創り手の育成

- ・ 将来の予測が困難な時代において、未来に向けて自らが社会の創り手となり、課題解決などを通じて、持続可能な社会を維持・発展させていく
- ・ 社会課題の解決を、経済成長と結び付けてイノベーションにつなげる取組や、一人一人の生産性向上等による、活力ある社会の実現に向けて「人への投資」が必要
- ・ Society5.0で活躍する、主体性、リーダーシップ、創造力、課題発見・解決力、論理的思考力、表現力、チームワークなどを備えた人材の育成

日本社会に根差したウェルビーイング（※）の向上

- ・ 多様な個人それぞれが幸せや生きがいを感じるとともに、地域や社会が幸せや豊かさを感じられるものとなるための教育の在り方
- ・ 幸福感、学校や地域でのつながり、利他性、協働性、自己肯定感、自己実現等が含まれ、協調的要素と獲得的要素を調和的・一体的に育む
- ・ 日本発の調和と協調（Balance and Harmony）に基づくウェルビーイングを発信

※身体的・精神的・社会的に良い状態にあること。短期的な幸福のみならず、生きがいや人生の意義などの将来にわたる持続的な幸福を含む概念。

教育振興基本計画概要【抜粋】

令和5年6月16日 閣議決定

我が国の教育をめぐる現状・課題・展望

教育の普遍的な使命：学制150年、教育基本法の理念・目的・目標（不易）の実現のための、社会や時代の変化への対応（流行）

教育振興基本計画は予測困難な時代における教育の方向性を示す羅針盤となるものであり、教育は社会を牽引する駆動力の中核を担う

【社会の現状や変化】

- ・新型コロナウイルス感染症の拡大
- ・グローバル化・地球規模課題

- ・VUCAの時代（変動性、不確実性、複雑性、曖昧性）
- ・精神的豊かさの重視（ウェルビーイング）

・（初等中等教育）国際的に高い

・（高等教育）教学マネジメントや

・（学校段階横断）教育費負担軽減による進学率向上、教育研究環境整備や耐震化

等

・高度専門人材の不足や労働生産性の低迷

・博士課程進学率の低さ

等

次期計画のコンセプト

2040年以降の社会を見据えた持続可能な社会の創り手の育成

- ・Society5.0で活躍する、主体性、リーダーシップ、創造力、課題発見・解決力、論理的思考力、表現力、チームワークなどを備えた人材の育成

- ・多様な個人それぞれが幸せや生きがいを感じるとともに、地域や社会が幸せや豊かさを感じられるものとなるための教育の在り方
- ・幸福感、学校や地域でのつながり、利他性、協調性、自己肯定感、自己実現等が含まれ、協調的要素と獲得的要素を調和的
- ・一体的に育む

の意義などの将来にわたる持続的な幸福を含む概念。

今後の教育政策に関する基本的な方針

① グローバル化する社会の持続的な発展に向けて学び続ける人材の育成

- ・主体的に社会の形成に参画、持続的社会的発展に寄与
- ・「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善、大学教育の質保証
- ・探究・STEAM教育、文理横断・文理融合教育等を推進
- ・グローバル化の中で留学等国際交流や大学等国際化、外国語教育の充実、SDGsの実現に貢献するESD等を推進
- ・リカレント教育を通じた高度人材育成

② 誰一人取り残されず、全ての人の可能性を引き出す共生社会の実現に向けた教育の推進

- ・子供が抱える困難が多様化・複雑化する中で、個別最適・協働的学びの一体的充実やインクルーシブ教育システムの推進による多様な教育ニーズへの対応
- ・支援を必要とする子供の長所・強みに着目する視点の重視、地域社会の国際化への対応、多様性、公平・公正、包摂性（DE&I）ある共生社会の実現に向けた教育を推進
- ・ICT等の活用による学び・交流機会、アクセシビリティの向上

人生100年時代に複線化する生涯にわたって学び続ける学習者

③ 地域や家庭で共に学び支え合う社会の実現に向けた教育の推進

- ・持続的な地域コミュニティの基盤形成に向けて、公民館等の社会教育施設の機能強化や社会教育人材の養成と活躍機会の拡充
- ・コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進、家庭教育支援の充実による学校・家庭・地域の連携強化
- ・生涯学習を通じた自己実現、地域や社会への貢献等により、当事者として地域社会の担い手となる

④ 教育デジタルトランスフォーメーション（DX）の推進

DXに至る3段階（電子化→最適化→新たな価値（DX））において、第3段階を見据えた、第1段階から第2段階への移行の着実な推進

GIGAスクール構想、情報活用能力の育成、校務DXを通じた働き方改革、教師のICT活用指導力の向上等、DX人材の育成等を推進

教育データの標準化、基盤的ツールの開発・活用、教育データの分析・利活用の推進

デジタルの活用と併せてリアル（対面）活動も不可欠、学習場面等に応じた最適な組合せ

⑤ 計画の実効性確保のための基盤整備・対話

学校における働き方改革、処遇改善、指導・運営体制の充実の一体的推進、ICT環境の整備、経済状況等によらない学び確保

NPO・企業等多様な担い手との連携・協働、安全・安心で質の高い教育研究環境等の整備、児童生徒等の安全確保

各関係団体・関係者（子供を含む）との対話を通じた計画の策定等

（5つの基本的な方針）

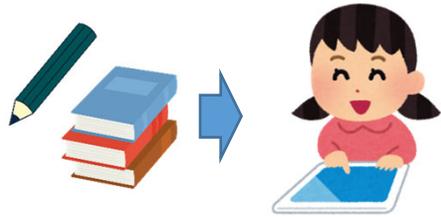
- 本計画においては、上述の総括的な基本方針の下、以下の5つの基本的な方針を定める。
- ① グローバル化する社会の持続的な発展に向けて学び続ける人材の育成
- ② 誰一人取り残されず、全ての人の可能性を引き出す共生社会の実現に向けた教育の推進
- ③ 地域や家庭で共に学び支え合う社会の実現に向けた教育の推進
- ④ 教育デジタルトランスフォーメーション（DX）の推進**
- ⑤ 計画の実効性確保のための基盤整備・対話

教育DXのイメージ

世の中の各分野でDX化が加速。教育においても将来的な第3段階までを見据えて、前向きな変化を進めていく。現在の取組は大半が第1段階であり、速やかに第2段階の実行と第3段階の構想を進めていく。

第1段階

デジタイゼーション
Digitization (“ICT化”)



アナログ・紙をデジタル化することで
学習や業務を効率的・効果的に

- ハード・ネットワーク整備
・GIGAスクール構想による端末の配布、ネットワークの強化
- 教育・学習のデジタル化
・デジタル教科書の導入
・学校業務のデジタル化
・Computer Based Testing (C B T) の導入
- 教育にかかる手続き・事務のデジタル化

第2段階

デジタルライゼーション
Digitalization



デジタル技術・データ活用による学
習指導・教育行政の改善・最適化

- 学習におけるデジタルとアナログのベストミックス
- 学習コンテンツを便利に、シームレスに利活用可能
- 学習の記録等が必要な時に必要な人が参照・活用可能
・記録データの標準化
・データの持ち運びの標準規格
- データの分析・利活用により、有用な知見の共有・活用

第3段階

デジタルトランスフォーメーション
Digital Transformation (DX)



学習モデルの構造等が質的に変革し、
新たな価値を創出

場所や時間・言語等にとらわれない学び、個人の特性に応じた学び、生涯を通じた学びなど、学びの在り方や学び方が変化

教育データの利活用で学びが変わる（イメージ）

教育データの利活用にかかる論点整理（中間まとめ）概要
（教育データの利活用に関する有識者会議、令和3年3月）

①子供の視点

学びを振り返る

- 自身の学びや成長の記録を一目で振り返り、強みや弱点を簡単に把握することが可能

学びを広げる・補う

- 興味のある分野を発展的に学習
- 苦手分野克服や復習のためのレコメンド
- 不登校・病気で学習できなかった分野を補う

学びを伝える

- 学校と家庭での学びなどをつなぐことができる
- 転校・進学しても何を学んだかが残っている
- 資格や履歴の証明等をデジタルで提示できる

③保護者の視点

- 子供の学校での様子を確認
- 学校との連絡も容易に

子供の学習状況を踏まえて、家庭学習の支援ができる！

できるようになったことや苦手なことが一目でわかる！

ここが自分の弱いところか。夏休みはこの復習をがんばろう！

転校したばかりなのに、先生は自分のよいところを理解してくれている！

今、勉強していることを使って、中学校ではこんなことを学ぶのか。試しに関連動画を見てみよう！

②教師の視点

きめ細かい指導・支援

- 子供一人ひとりに関する様々なデータを一目で把握
- 「ノーマーク」だった児童生徒を早期発見、支援
- 学校全体で子供の様子を把握し、支援
- 転校・進学前の子供の様子も分かる

教師自身の成長

- これまでの経験・知見と照合
- グッドプラクティスを共有し、指導改善に活用

④学校設置者の視点

- 学校ごとのデータをリアルタイムで参照
- 学校への調査が負担なく簡単に
- 類似自治体と比較し、施策改善が可能になる

なるほど。不登校が減った市の取組は、こういう点が共通しているのか。

前の学年でここが苦手だったのね。それなら、ここは丁寧に指導しよう。

最近、食欲がなさそう。何か心配事はないか、聞いてみよう。

今度、この生徒のここを褒めよう！

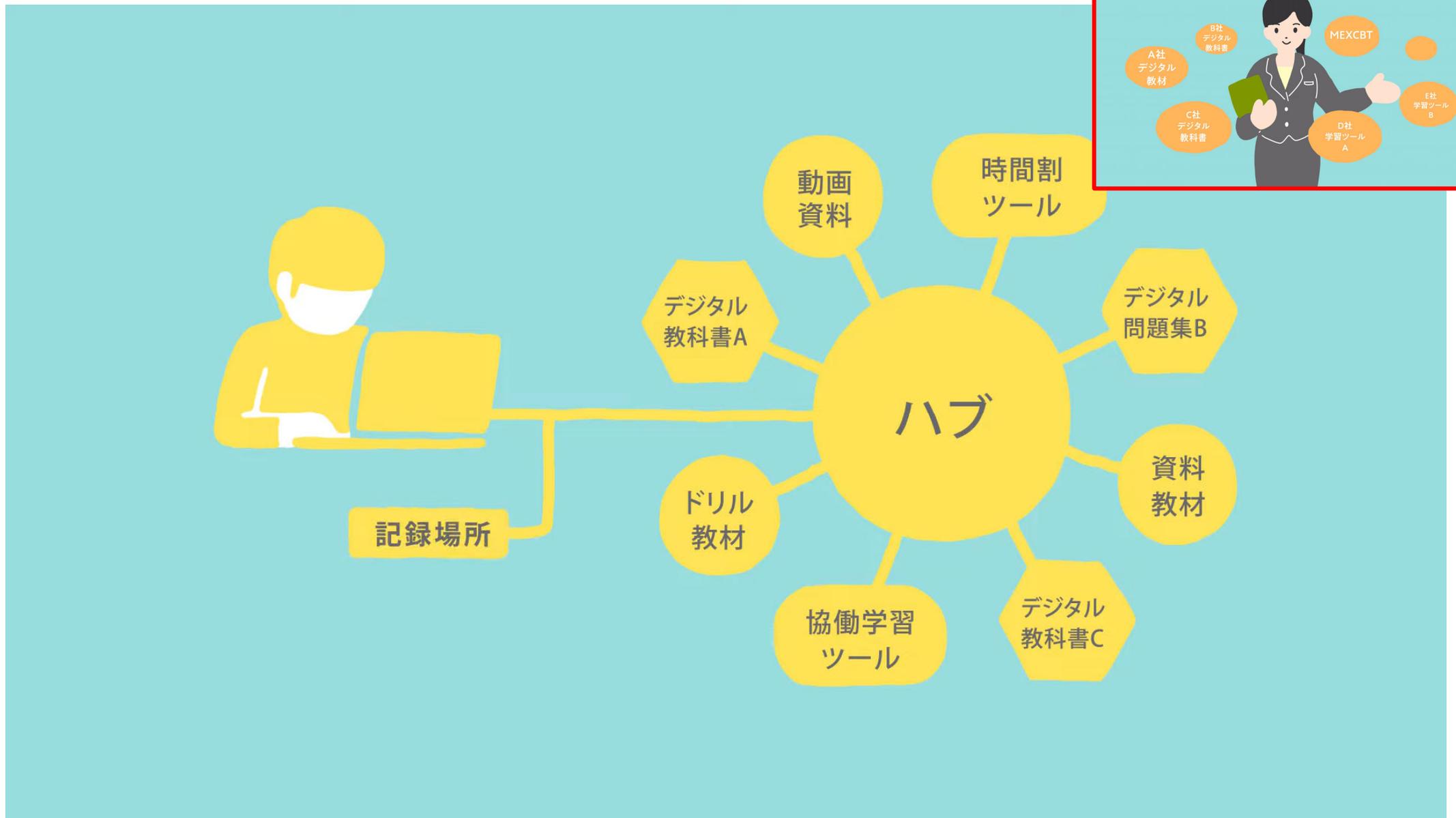
私はこう思うけど、データによるとどうなのか。ヒントになる部分がないか確認しよう。

⑤行政機関・大学等の研究機関の視点

- 学習指導要領の改訂などにデータを活用することで根拠に基づいた政策（EBPM）を実現
- これまで分からなかった人の学習過程の解明に基づき、新たな教授法・学習法を創出
- 教員養成・研修等に活用することで、教師の資質能力向上を推進

子供たちから見た学びの世界（イメージ）

端末から学習eポータルをハブとして、学校や自治体が選択するデジタル教材等につながる複数のデジタル教材等からの学習データも共有され、自らの学びの特性や結果を知れる自分にあった学び方のアドバイスも受けられる可能性(将来)



子供たちから見た学びの世界（イメージ）

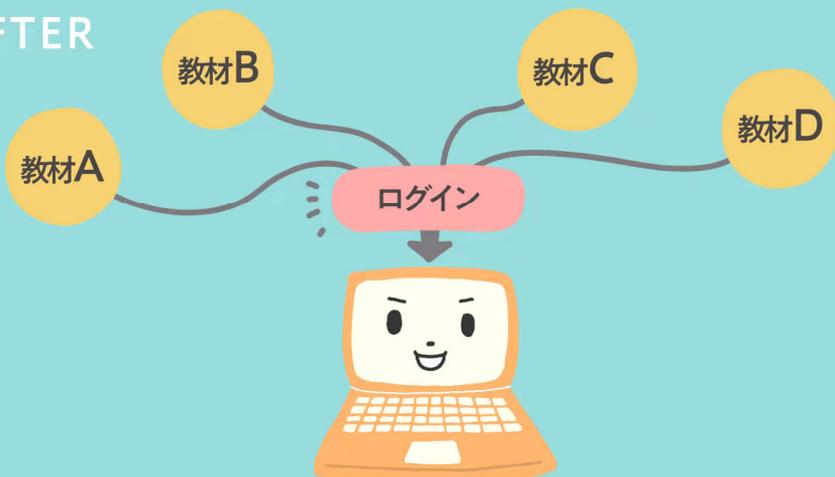
ワンストップで接続しているツールに接続したり、授業で使うデジタル教材に飛べたりする。

学習データを分析して結果を表示したり、結果を踏まえたアドバイスを得られたりする。

→複数ツール活用が容易に。授業がスムーズにスタート。自分の学びについての自己認識、学び方の改善

1. 学習者の活用イメージ

AFTER



1. 学習者の活用イメージ

AFTER

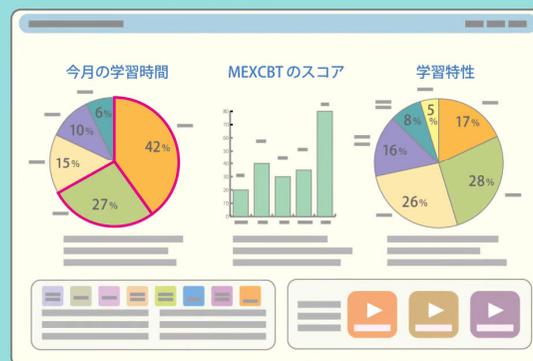
学びたいところにワンクリックでスムーズにいったぞ!

数学

2時間目

動画解説

1. 学習者の活用イメージ



今週は教科書を読んだり、動画を観たりする
インプットの時間が多いので、
来週は演習問題を解いたり、
文章にまとめたりする
アウトプットの時間を増やそう。



eポータルをハブとする世界で目指していること

校務支援システムで作成した名簿があれば、eポータルやツールの利用が可能に
→特に年度当初の先生方の負担を軽減

2. 教員や学校・教育委員会の活用イメージ

BEFORE



何度も入力が面倒だわ...

アプリA

学年	クラス	番号	氏名	備考
4	1	200101	青木洋子	
4	1	200102	青山一郎	
4	1	200103	赤坂春香	
4	1	200104	飯島隼人	
4	1	200105	石山夏希	
4	1	200106	江波翔太	

アプリB

番号	氏名	学年	クラス	備考
200101	青木洋子	4	1	
200102	青山一郎	4	1	
200103	赤坂春香	4	1	
200104	飯島隼人	4	1	
200105	石山夏希	4	1	
200106	江波翔太	4	1	

アプリC

氏名	番号	学年	クラス	備考
青木洋子	200101	4	1	

2. 教員や学校・教育委員会の活用イメージ

AFTER



1度の入力でOK!

校務支援

学年	クラス	番号	氏名	備考
4	1	200101	青木洋子	
4	1	200102	青山一郎	
4	1	200103	赤坂春香	
4	1	200104	飯島隼人	
4	1	200105	石山夏希	
4	1	200106	江波翔太	

学習eポータル

アプリA

アプリC

アプリE

アプリB

アプリD

学校や教育委員会での活用イメージ

蓄積された様々な学習データやその分析結果を一覧、個々の子供の特性把握の一助

→個々の子供に応じた指導や助言、支援を可能に

標準化されたデータ＝比較可能なデータやその分析を一覧

→地域の学校の現状を把握したり、他校との知見の共有を可能に

2. 教員や学校・教育委員会の活用イメージ



山田さんは理科の授業中はあまり発言しないけど国語の授業の作文を読んでも宇宙についてすごく興味があるみたいだな。



2. 教員や学校・教育委員会の活用イメージ

市内の様々な学校でSTEAM教育に取り組んでいるが、このデジタル教材を活用している学校では生徒の満足度が高いな。どんな取り組みが行われているか学校に聞き取ってみよう。

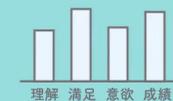


学習ログ

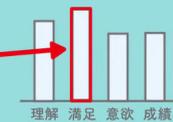
数学テクノロジー関連の学び

学習内容

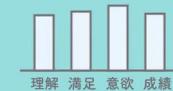
理解度・満足度・意欲・成績



ICTを活用した学び合い

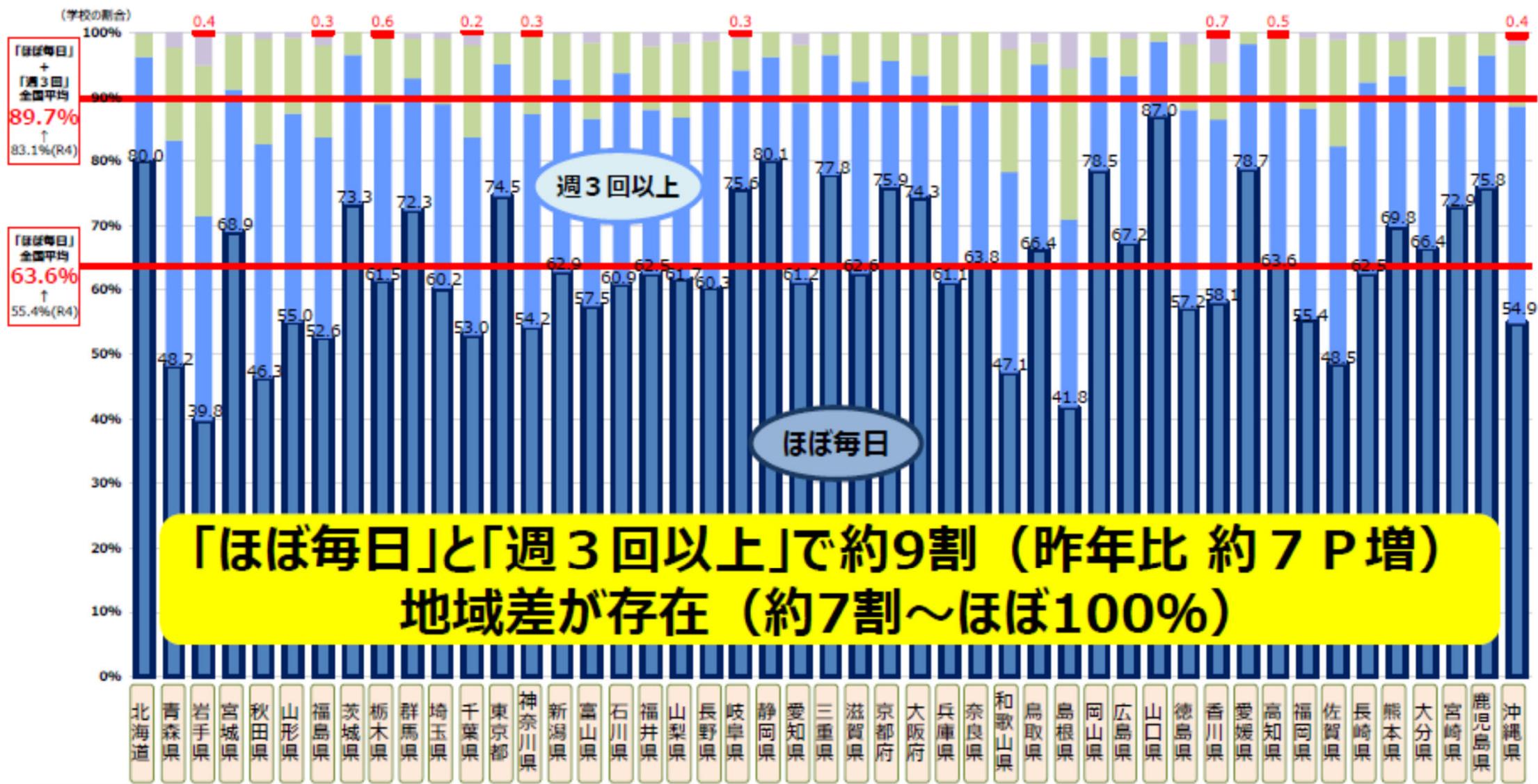


アート教養関連の学び



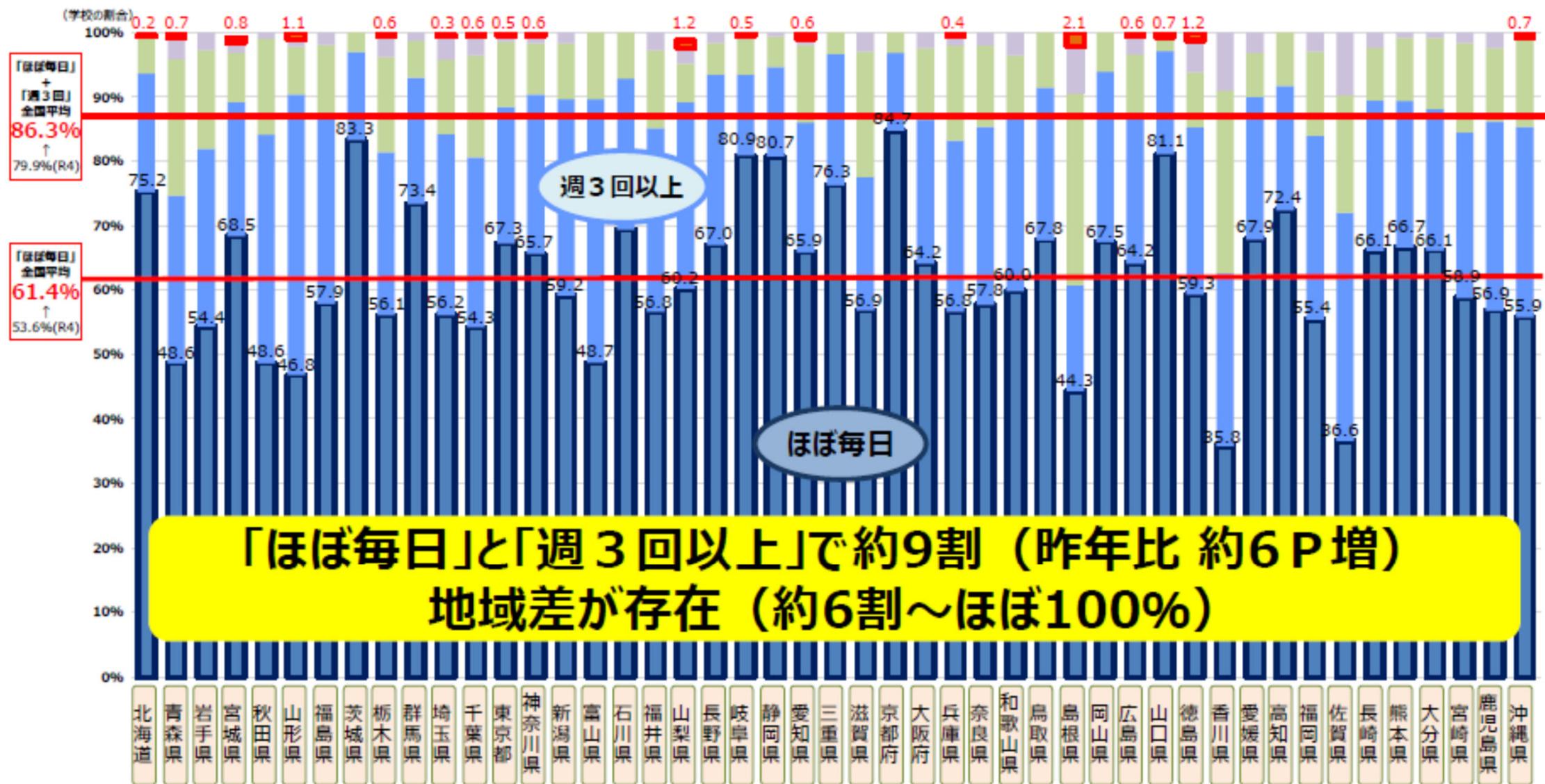
学校における端末利活用の実態

1人1台端末を授業で活用 (小学校・都道府県別 ※政令市除く)



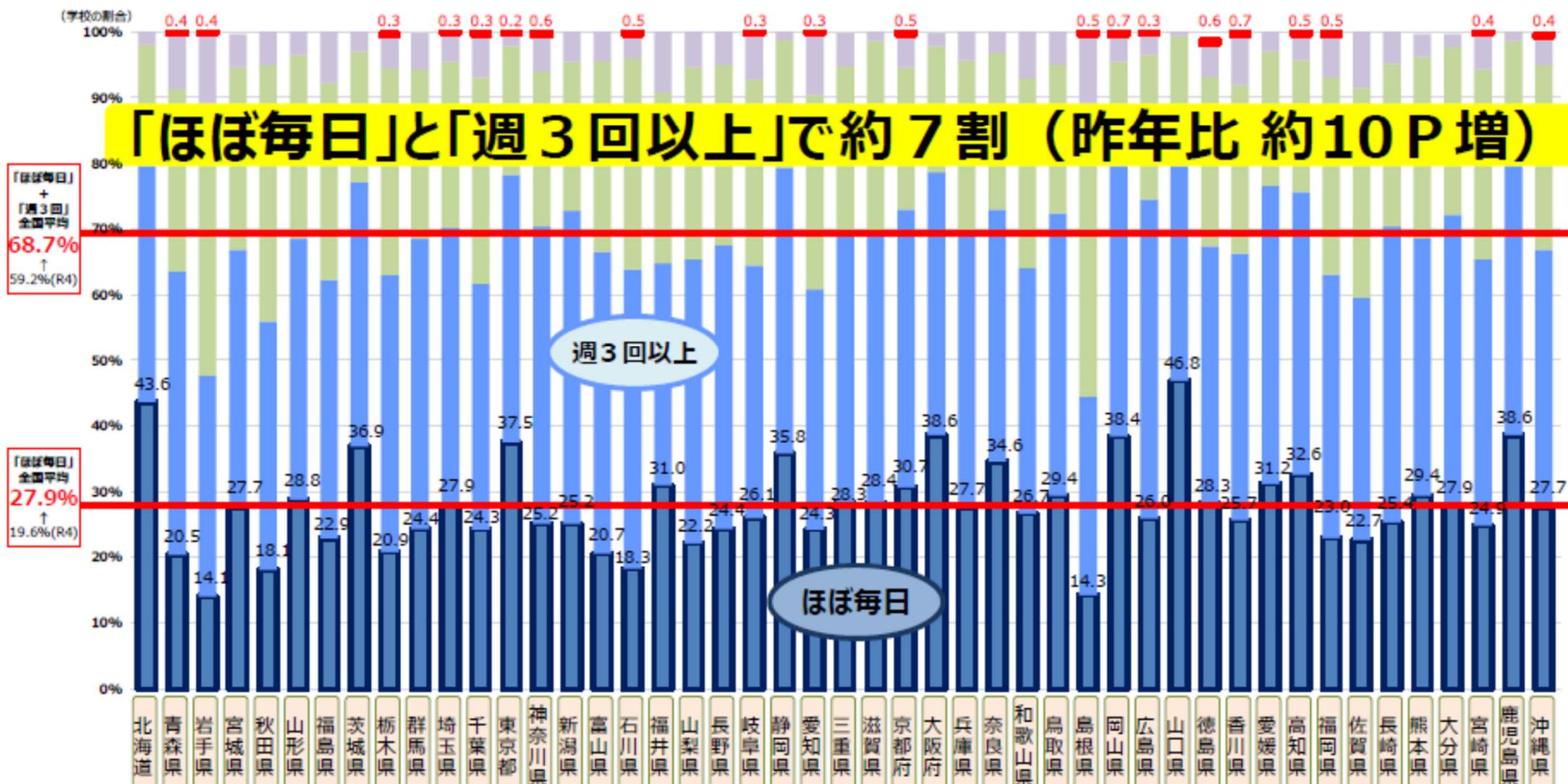
学校における端末利活用の実態

1人1台端末を授業で活用 (中学校・都道府県別 ※政令市除く)



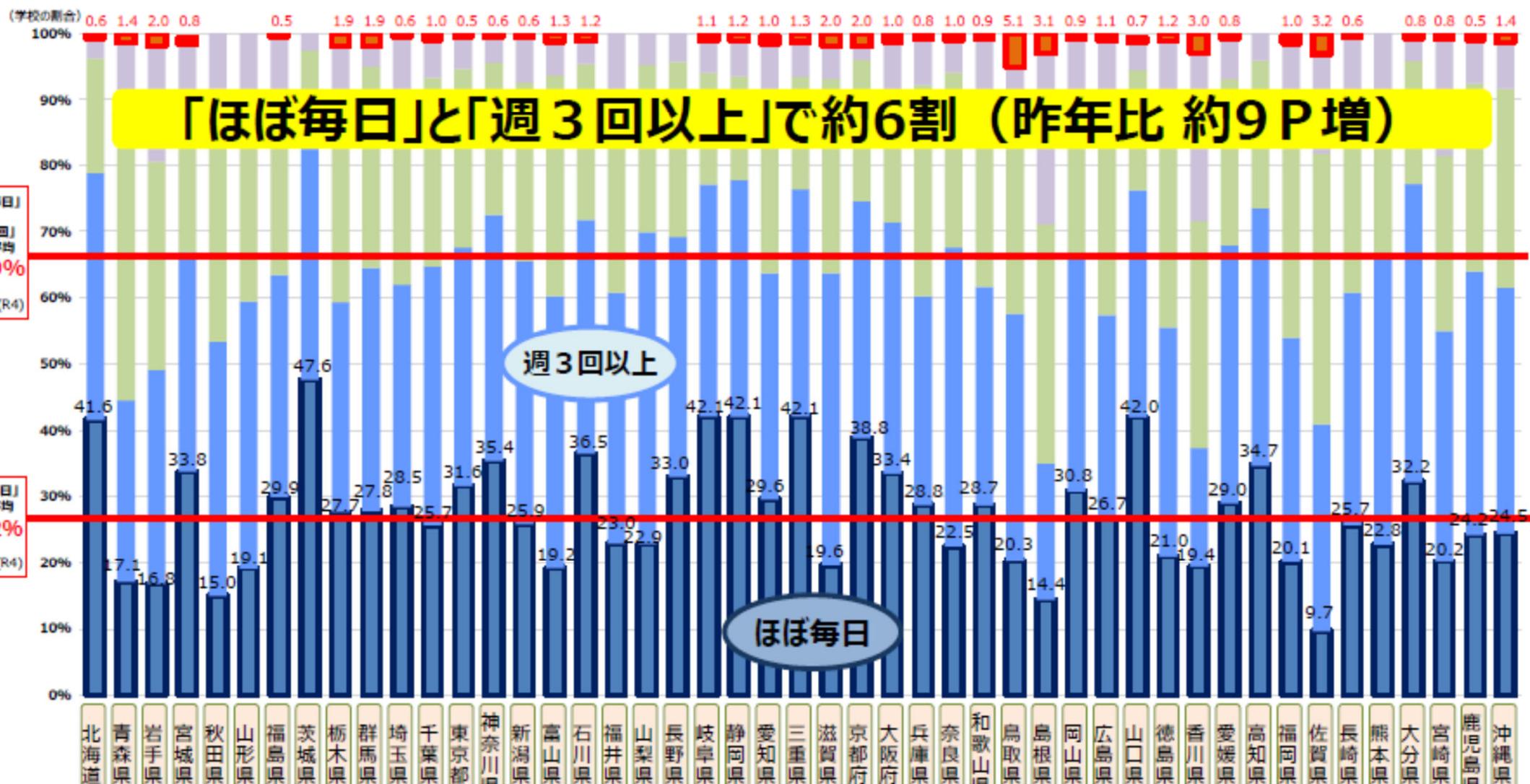
学校における端末利活用の実態

自分で調べる場面 (小学校・都道府県別 ※政令市除く)



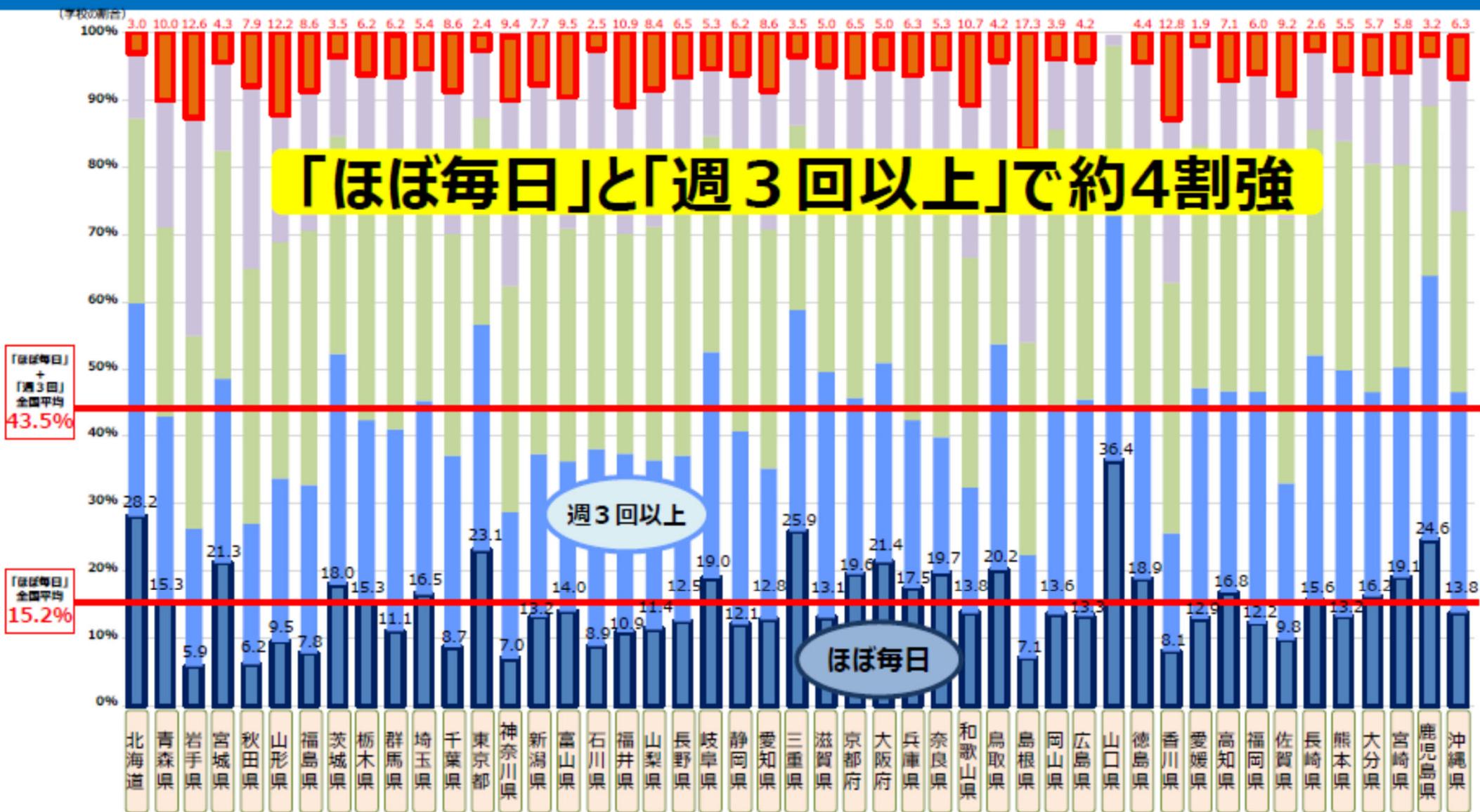
学校における端末利活用の実態

自分で調べる場面 (中学校・都道府県別 ※政令市除く)



学校における端末利活用の実態

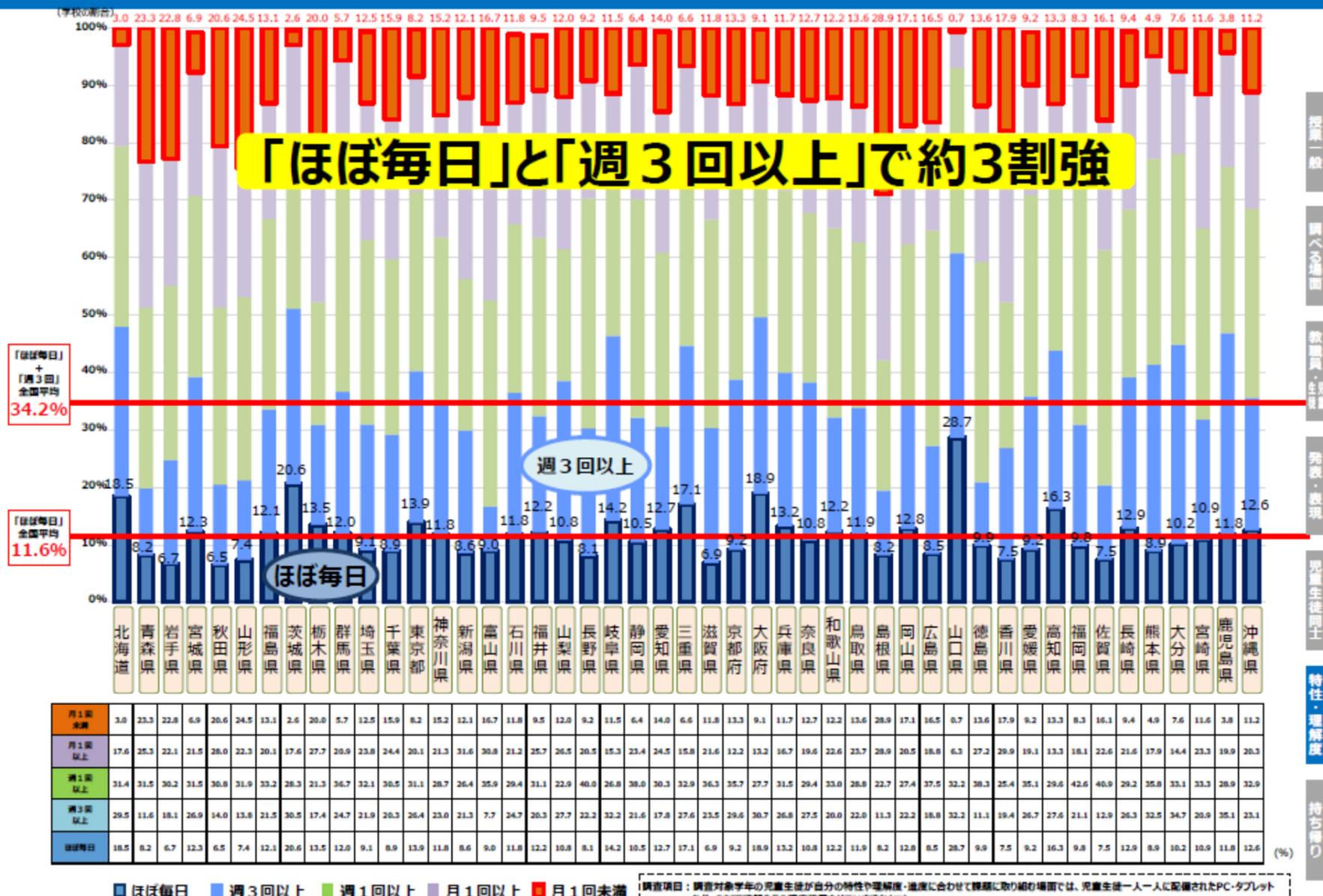
特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面 (小学校・県別 ※政令市除く)



授業一般
調べる場面
教職員・生徒
発表・表現
児童生徒同士
特性

学校における端末利活用の実態

特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面 (中学校・県別 ※政令市除く)



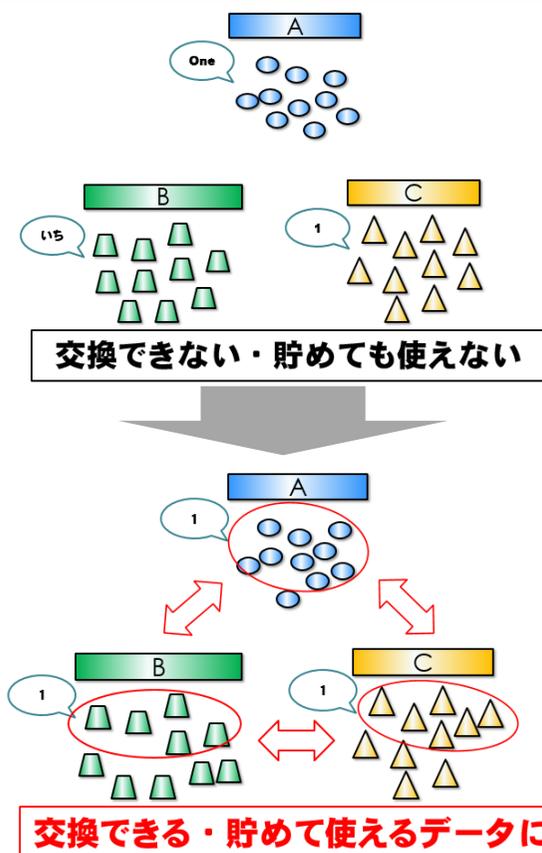
教育DXの実現に向けた取組

現在自治体・事業者ごとにバラバラに定義されたり、バラバラに活用されている教育データやノウハウ・知見を全国レベルで共有し、それらを用いて新たな価値を創り出すことで、行政や教育現場の次のアクションにつなげ、学びの在り方を変革し、日本全体の教育水準の向上に役立てる。

そのために国が行う取組

ルール

教育データの内容・規格の
共通化



ツール

全国の学校・自治体が共通で
使えるシステムの開発・運用



分析・活用

データの分析、知見の共有



児童生徒がどこでつまづきやすいのかを
データから分析

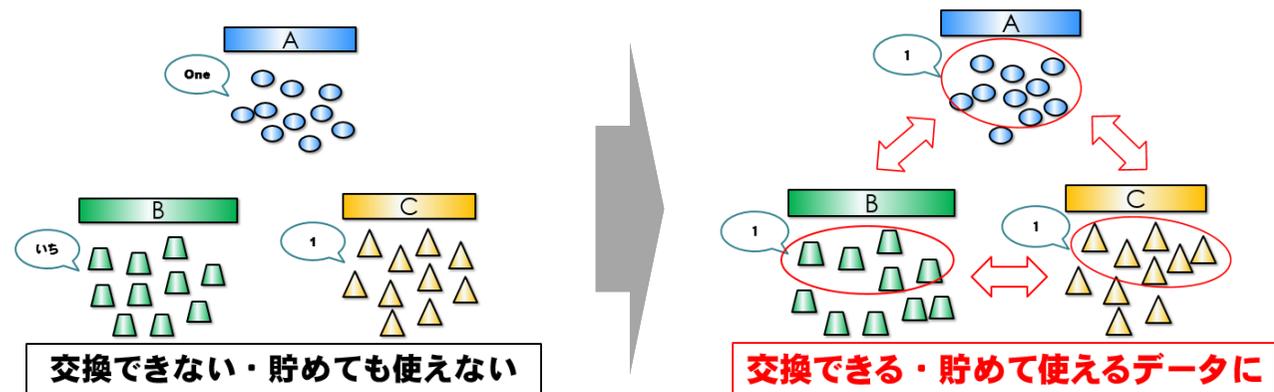
地域や学校を超えて、
よい実践やノウハウを共有

真に支援が必要な子供を特定・支援

学校・行政に還元・反映
学校現場の改善へ

2. 共通ルールの整備

教育データの内容・規格の共通化



教育データの標準化

教育データを、データの種類や単位が、サービス提供者や使用者ごとに異なるのではなく、**相互に交換、蓄積、分析が可能**となるように収集する**データの意味を揃えること**

- (1) データ内容の規格：各国により文脈が異なるため、主に各国が独自に定める必要
- (2) データの技術的な規格：データの技術的な規格は流通している国際標準規格を主に活用

① 主体情報

児童生徒、教職員、学校等のそれぞれの属性等の基本情報を定義。



【児童生徒情報】
性別、生年月日、
在席校、学年等



【教職員情報】
免許、勤続年数
等



【学校情報】
学校コード、児童
生徒数、学級数、
教職員数等



【学校設置者情報】
(国立・私立) 法人番号
、(公立) 教育委員会コ
ード等

② 内容情報

学習内容等を定義



学習分野 (分類)	学習分野に関する情報 (学習指導要領コードを含む)
教育的な特徴	想定する学習者、タイプ(解説文・図表・演習)等の情報
権利に関する情報	知的所有権や利用条件の情報

③ 活動情報

何を行ったのかを定義
(狭義の学習行動のみ
だけでなく関連する
行動を含む)

教育現場において想定される活動を整理し、以下の通り分類 (今後更に深掘り)

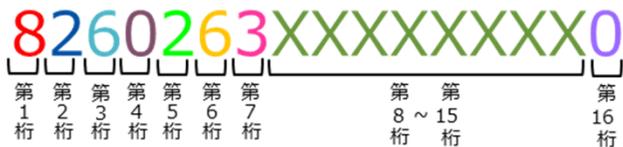
行動	「生活」「学習」「指導」「運営」
状態	カテゴリごとのデータセット (例: 「健康」、「運動」、……)

- (留意点) ・標準化の対象はデータの全てを網羅するものではなく、データの相互運用性を図る観点から全国的な定義の統一が必要なもののみである。
・ここで定義している情報を各学校等で集めなければならないものではない。(法令等で規定されている情報等は当該規定に従う必要がある。
・標準項目以外に各学校設置者、学校で必要と考えるデータがあれば独自に定義して活用することは可能。

教育データ標準①

教育データ標準 1.0 (2020年度)

10月 「内容情報」の一つである「学習指導要領コード」を公表



桁	第1桁	第2桁	第3桁	第4桁	第5桁	第6桁	第7桁	第8桁~第15桁	第16桁
区分	告示時期	学校種別	教科	分野・科目・分類	目標・内容・内容の取扱い (大項目)	学年・段階	目標・内容・内容の取扱い (小項目)	細目	一部改正

教育データ標準 1.1 (2020年度)

12月 「主体情報」の一つである「学校コード」を公表

学校コードのイメージ

B1-01-1-1000002-9(構成要素間の-は便宜上のもの)

学校種 (2桁)	都道府県番号 (2桁)	設置区分 (1桁)	学校番号 (7桁)	検査数字 (1桁)
A1:幼稚園 ※ A2:幼保連携型認定こども園 B1:小学校 C1:中学校 C2:義務教育学校 D1:高等学校 D2:中等教育学校 E1:特別支援学校 F1:大学 F2:短期大学 G1:高等専門学校 H1:専修学校 H2:各種学校	01:北海道 ~ 47:沖縄県	1:国立 2:公立 3:私立	1000000 ~ 9999999	0 ~ 9

※1桁目に0は使用しない

教育データ標準 2.0 (2021年度)

12月 「主体情報」を中心に公表

これまで制度等に基づき学校で活用されてきた情報など340項目

データ項目名称	データ型	文字数	コード名	サンプル値
姓名	VCHAR	205	-	教科 太郎

教育データ標準 2.1 (2021年度)

3月 「教育委員会コード」を公表

例)	教育委員会コード (6桁)	構成要素	
		県コード (2桁)	教育委員会番号 (4桁)
北海道教育委員会	011000	01	1000

教育データ標準②

教育データ標準3.0（2022年度）

12月 「主体情報」の更新。
政府相互運用性フレームワーク（GIF）に
揃える形で更新

1	児童生徒	StudentInformation	児童生徒の情
1.1	基本情報	Identity	
1.1.1	児童生徒識別子	identification	
1.1.2	在留カード番号	residenceCard	

「活動情報」の公表。まずは、「体力情報」を公表
今後随時追加予定。

6.14.1	握力	GripStrength			
6.14.1.1	実施回数	GripTimes	2回実施する		
6.14.1.1.1	回数	times		9	1
6.14.1.1.2	右(Kg)	gripRight		9	3
6.14.1.1.3	左(Kg)	gripLeft		9	3
6.14.1.2	平均	gripAverage		9	3
6.14.1.3	得点	gripScore		9	2

※これらの他、データの技術的な規格である「学習eポータル標準モデル」についても、随時更新し公表。

※教育データ標準等はこちらからご覧いただけます

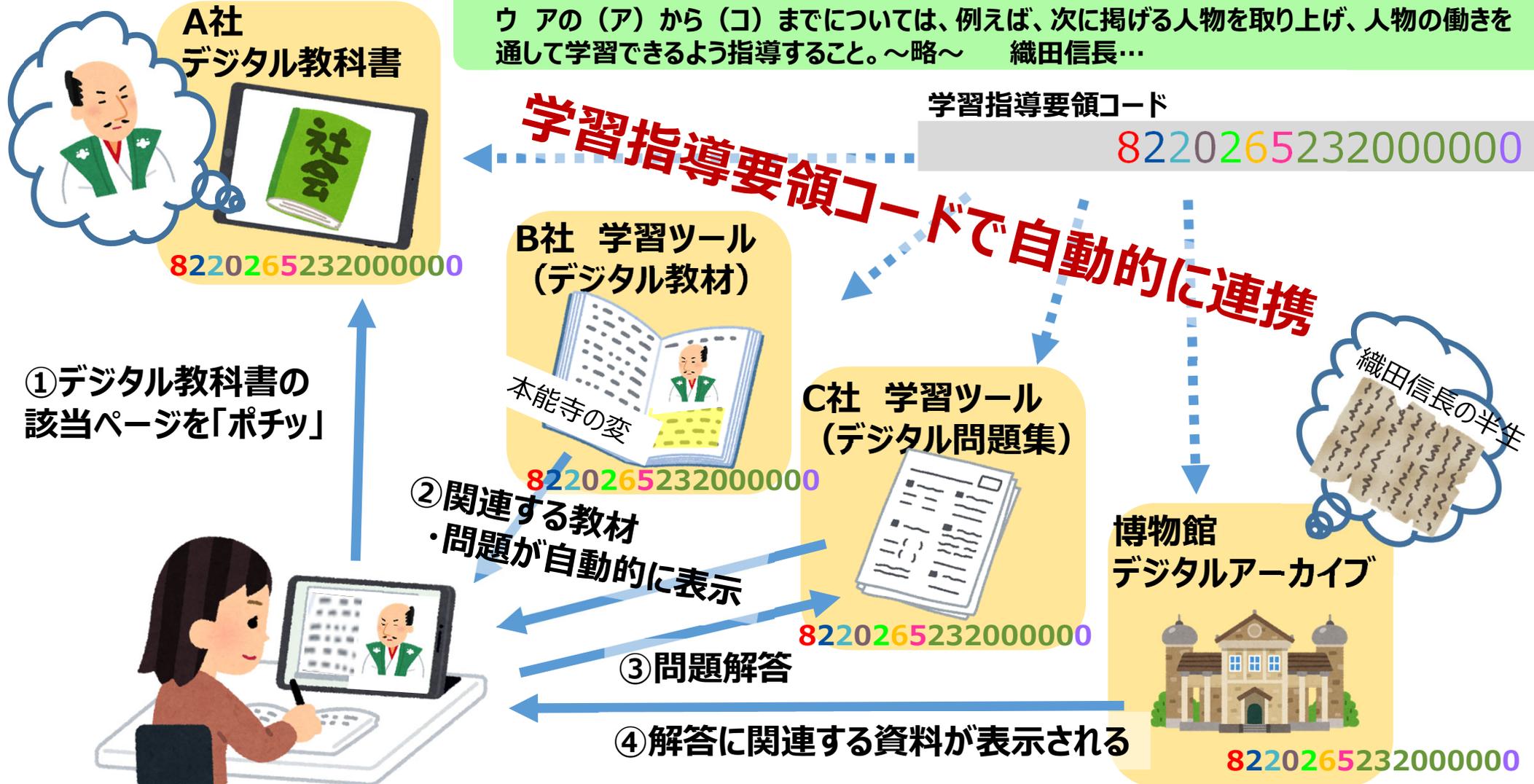
教育データ活用イメージ（教科書・教材等の連携）

➤ 内容情報（学習指導要領コード）をキーにして、各民間事業者のデジタル教科書・教材ツール・学習ツールや、博物館のデジタルアーカイブを関連付けすることが可能に

学習指導要領（小学6年社会）

3 内容の取扱い（2）内容の（2）については、次のものを取り扱うものとする。

ウ アの（ア）から（コ）までについては、例えば、次に掲げる人物を取り上げ、人物の働きを通して学習できるよう指導すること。～略～ 織田信長…

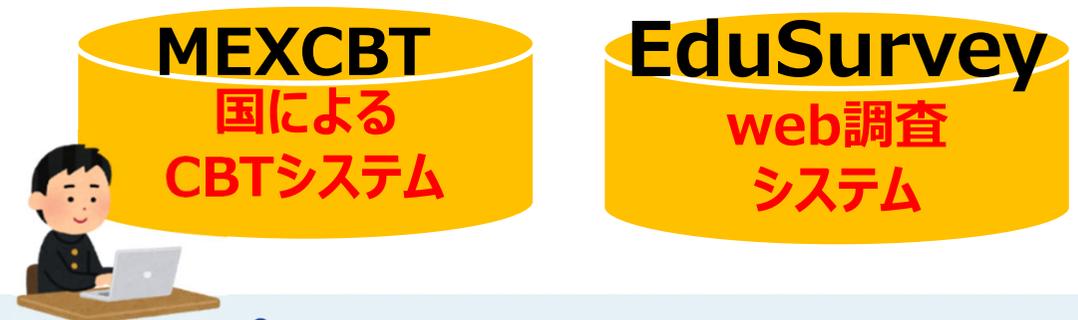


※教材等の各事項には学習指導要領コードが複数付与される場合もあり、常に1対1となるものではない。
(各事項ごとに学習指導要領コードをタグづけして活用するイメージ)

3. 基盤的ツールの開発・運用

- ・CBTシステム (MEXCBT)
- ・インターネット調査システム (EduSurvey)

全国の学校・自治体が共通で
使えるシステムの開発・運用



文部科学省CBTシステム（MEXCBT：メクビット）

MEXT + CBT
文部科学省 Computer
Based Testing



MEXCBT
メクビット

- 小・中・高等学校等の子供の学びの保障の観点から、
児童生徒が学校や家庭において、学習やアセスメントが
できるCBTシステム
- 文部科学省が開発・運用（事業者連合体のコンソーシアムに委託）
- 国や地方自治体等の公的機関等が作成した問題約4万問を搭載、全国で活
用可能（令和5年4月現在）
- 公立小学校の70%超、公立中学校のほぼ全て（ほぼ全ての自治体、約2.5万
校、児童生徒等約800万人）が登録（令和5年5月現在）
- 令和5年度全国学力・学習状況調査の中学校英語「話すこと」調査で活用。加
えて、地方自治体の学力調査等においても試行・検証を実施中。
- 「GIGAスクール構想」により実現する 「1人1台端末」を活用した「デジタル
ならでは」の学びに貢献

MEXCBTの活用、広がっています①

MEXCBTは、搭載済みの問題を日々の学習の中で解くだけでなく、全国学力・学習状況調査や地方自治体独自の**学力調査等のCBT化**、国で実施している**アンケート調査**、教員による**教材作成**など、様々な用途に活用されています。

① MEXCBT×日々の学習

- 授業や朝学習、家庭学習等においてMEXCBTを活用。

全国学力・学習状況調査問題の他にもたくさんの問題を搭載しています。



② MEXCBT×教員による教材作成

- 「テスト作成サイト※」で作成した自作教材（テスト・問題）をMEXCBTに搭載し、授業で使ったり、課題として配信可能。R5.3月現在、20自治体により作成された122問がMEXCBTに搭載。

③ MEXCBT×地方自治体学力調査

- 地方自治体独自の学力調査をMEXCBTにより実施可能。R5年度は16自治体が活用予定。

④ MEXCBT×全国学力・学習状況調査

- 全国学力学習状況調査の一部をMEXCBTを活用して実施
- R5年4月～5月、中学校3年生を対象とした生徒質問紙の一部や英語「話すこと」調査においてMEXCBTを活用（「話すこと」調査には約1万校が参加）。

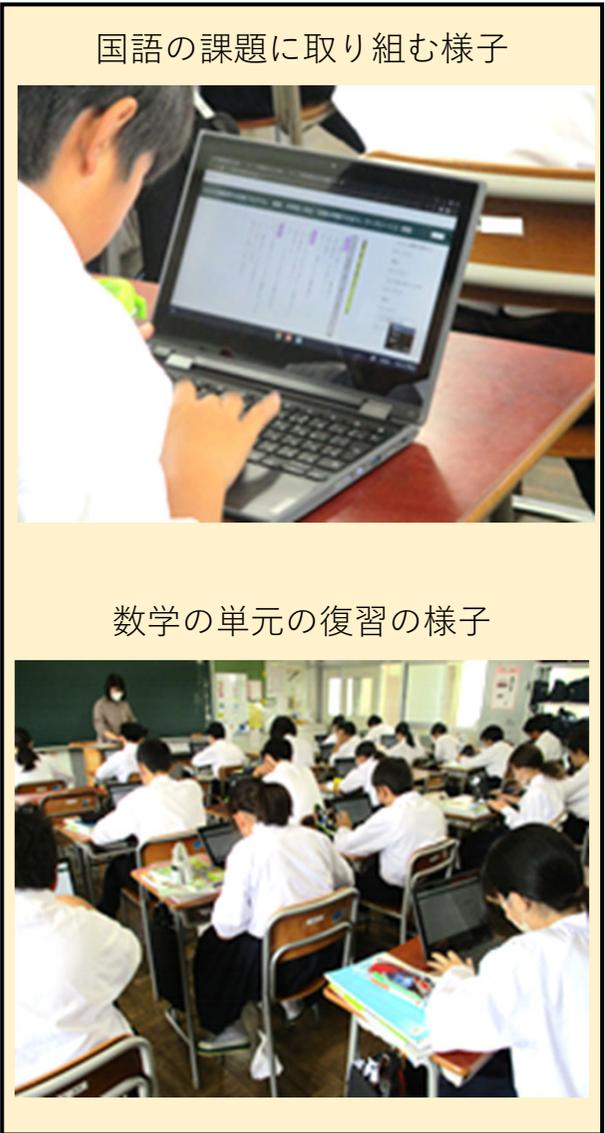
⑤ MEXCBT×国実施アンケート調査

- 教員や児童生徒一人一人を対象とした大規模なアンケート調査（数十万人規模）を、MEXCBTを活用して実施。

文部科学省CBTシステム（MEXCBT：メクビット）活用事例 【埼玉県】加須市立騎西中学校

埼玉県の加須市立騎西中学校 内田 智之 先生から、MEXCBTの利活用についてお話を伺いました。
 騎西中学校は、令和4年度と令和5年度のMEXCBTの学校別解答数の累計が、たいへん多くなっています(令和5年6月時点)。朝の学習や家庭学習等での課題において活用された際の子どもたちや先生方それぞれの視点からの利点について、主にお話を伺いました。
 ■■■学校HPのURL https://www.city.kazo.lg.jp/soshiki/kyouiku/kyouiku/kisainishi_j/index.html ■■■

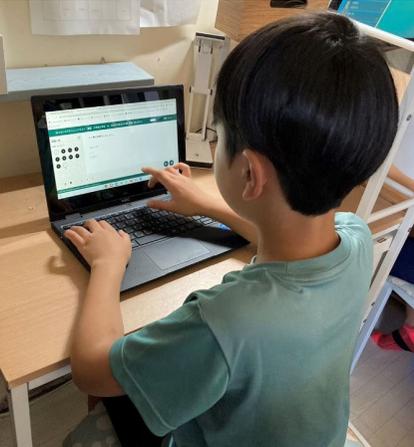
<p>活用の概要</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○朝のチャレンジタイム（10分間の学習の時間）で活用 ○毎日の家庭学習、長期休業中の課題として活用 ・全国学力・学習状況調査の過去問題や加須市チャレンジシートなどで各教科の課題となっている分野を重点的に取り組んだ。 (例) 3年生：全国学力・学習状況調査（過去問題） 全学年：加須市チャレンジシート ・学習単元終了後、復習として課題に取り組んだ。 ・定期テスト対策として類題に取り組んだ。
<p>子どもたちの反応</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・解答後すぐに答え合わせができるため、分かりやすかった。 ・課題に向き合っ黙々と取り組んでおり、筆記用具を用いて行うよりも集中して行っていた。 ・回数を重ねるごとにタブレット操作もスムーズになっていった。
<p>先生の反応</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・進度に合わせた配信（個別対応）ができるため便利。 ・理解度が目に見えて捉えられるため、学習の到達度等も把握しやすい。 ・配信課題が多くあり、課題作成の時間が減り、働き方改革へとつながっている。
<p>今後の活用</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、朝の時間や単元の振り返り（復習）として使用していきたい。 ・授業での活用、問題作成のスキルを身に付け、活用の場面を増やしていきたい。



※ 文部科学省では、いただいたご意見やご要望を参考に、順次、MEXCBTの改善を進めています。

文部科学省CBTシステム（MEXCBT：メクビット）活用事例 【北海道】 八雲町立熊石小学校

北海道の八雲町立熊石小学校 阿部 光一郎 先生から、MEXCBTの利活用についてお話を伺いました。
 熊石小学校は、児童一人あたりの平均解答数がたいへん多くなっています(令和5年6月時点)。MEXCBTを活用することによって達成を目指す児童の姿や、活用の場面ごとの利点や成果、そして今後の方向性などについて、これまでの経緯も含めて具体的にお話を伺いました。
 ■■■学校HPのURL <https://www.town.yakumo.lg.jp/site/kumaishi-es/>■■■

<p style="text-align: center; color: green; font-weight: bold;">活用の概要</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・八雲町では、令和2年度から「一人一台端末」を活用した学びが可能となり、LTE回線により、児童が端末を家庭に持ち帰って「いつでも」「どこでも」学ぶことができるようになった。 ・令和4年度、ICTを最大限活用した「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」を推進する中で、児童によっては紙媒体に手書きをするよりも、端末を活用した方が、学びに向かう力が高まることがわかった。 ・児童が主体的に個別最適な学びに取り組めるよう、校内研修の中でMEXCBTについて共通理解を図り、問題を選択・配信し、家庭学習においてMEXCBTを活用することとした。 <p>(問題活用の例) 2・3年生の学級で、主に算数の問題を配信。慣れるまでは1タイトルのみ配信していたが、今では2タイトルを配信し、学ぶ問題を児童が選択している。 「ほっかいどうチャレンジテスト さんすう 小学校2年生 100より大きい数」 「ちばっ子チャレンジ100 算数 小学校2年生 1000までの数」 「さいたま基礎学力定着プログラム 算数 小学校3年生ワークシート<3けたや4けたのたし算や引き算>」 など、授業に関連した問題を教員が選択して配信。</p>		<p style="background-color: yellow; text-align: center;">放課後学童保育にて、 MEXCBTで学習中！</p>
<p style="text-align: center; color: green; font-weight: bold;">子どもたちの反応</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・一問ずつ端末画面に表示されるため、集中して課題把握ができています。 ・自動採点によりすぐに結果がわかるため、学び直しができています。 ・手書きが不得手な児童が主体的に学び、達成感が自信につながっている。 		<p style="background-color: yellow; text-align: center;">担任が配信した問題を 家庭で学習中！</p>
<p style="text-align: center; color: green; font-weight: bold;">先生の反応</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・印刷せず、授業終了後にすぐ教師が意図した問題を児童に送信できるため便利。 ・わからない問題が宿題に出ると無記述で提出していた児童が、MEXCBTで出した問題を正解するまで何度も繰り返して学び直しをする姿に成果を感じている。 ・複式学級では、児童が自分でゴールを決めてやり遂げたい問題を選択できるようになり、主体的に学びに取り組めるようになったと感じている。 		
<p style="text-align: center; color: green; font-weight: bold;">今後の活用</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・単元レベルで授業改善を図り、「指導の個別化」と「学習の個性化」によって、一人一人の児童の可能性を最大限引き出せるよう効果的にMEXCBTを活用したい。 		

※ 文部科学省では、いただいたご意見やご要望を参考に、順次、MEXCBTの改善を進めています。

文部科学省CBTシステム（MEXCBT：メクビット）活用事例 【兵庫県】加古川市立加古川中学校

兵庫県の加古川市立加古川中学校 澤 伸明 先生から、MEXCBTの利活用についてお話を伺いました。加古川中学校は、MEXCBTの令和5年度の学校別解答数の累計が、全国で1番多くなっています（令和5年6月時点）。そこで、たくさんの活用をされている工夫や、たくさんの問題にあたられたからこそ分かったこと等について、お話を伺いました。

■■■学校HPのURL <https://www.city.kakogawa.lg.jp/soshikikarasagasu/kyouiku/gakoen/kakogawachugakkoku/kakogawachugakko/index.html>■■■

活用の概要

- 令和5年度4月より、毎日の朝の学習時間（10分間）に、週替わりで各教科の問題を配信し、活用。（第1学年から活用をはじめ、全学年でも順次活用予定）
 - 国語：ちばっ子チャレンジ100、さいたま基礎学力定着プログラム
 - 数学：高砂計算検定、全国学力・学習状況調査（小学校過去問題）
 - 社会：ちばのやる気学習ガイド、岩手県小学校学習定着度状況調査
 - 英語：ちばのやる気学習ガイド、幸手市中学校パワーアップシート
- 第1学年の朝の学習では、振り返り学習の教材として、小学校の問題を活用。
- 第2学年では、ゴールデンウィークの課題として活用。
 - 数学：幸手市中学校パワーアップシート
 （振り返り学習の教材として、中学校1年生や2年生の既習内容の問題を活用。）



朝の学習時間での活用風景

子どもたちの反応

- 各々が自分のペースで進めている。
- 自分の課題に応じた問題を解くことができている。

先生の反応

- 【よいこと】
- ◇業務を軽減することができた。
 - ・教員が問題を印刷して生徒に配付する必要がなくなった。
 - ・自動採点により、生徒が結果を一目で確認することができた。
- 【改善してほしいこと】
- ◇MEXCBTのシステムに合致しない問題がある。
 - ・分数や指数の入力が難しい。
 - ・記述式の問題などで模範解答が正答例と示されている問題があり、生徒が正答を自分だけで判断することが難しい場合がある。
 - ◇評価方法の検討が必要である。
 - ・MEXCBTと他のツール（Googleドキュメントやスライドなど）を併用して、振り返りと対策を生徒が各々で行う形式を検討中。

幸手市 数学 中学校2年生 パワーアップシートA3 - 問題

数学 中2 パワーアップシート③

問題1) 次の表を完成させなさい。

① y が x に比例している

x	ア	0	3	6	9
y	-8	イ	2	ウ	エ

② y が x に反比例している

x	-10	イ	0	2	20
y	ア	-5	ウ	10	ウ

問題2) 下の図で、次の問に答えなさい。

①A～Dの座標をいいなさい。

A(ア, イ) B(ウ, エ)

C(オ, カ) D(キ, ク)

問題1, ①, ア

Calculator interface showing input fields for fractions, decimals, and integers, along with a numeric keypad.

幸手市中学校パワーアップシート

今後の活用

- 本校の活用方法に合う問題作成を積極的に行っていきたい。
- ドリル学習のみとならないような活用方法（事後の取り組みなど）を検討していきたい。（生徒のレベルに応じた学習が進められるように、問題選択の多様化を検討中）

文部科学省CBTシステム（MEXCBT：メクビット）活用事例 【茨城県】ひたちなか市立佐野小学校

茨城県のひたちなか市立佐野小学校 水上先生から、MEXCBTの利活用についてお話を伺いました。

※ひたちなか市立佐野小学校の作成問題は、問題検索画面で「問題の種類から選ぶ」から「独自作成問題」「一問一答形式」を選択の上、検索・配信することで全国の学校で活用可能です。

■■■学校HPのURL http://www.hitachinaka-knet.ed.jp/sano_e/introduction.html■■■

1. なぜ、MEXCBTを使って問題を作成しようとしたのか経緯を教えてください。

- 令和3年度に全国学力・学習状況調査のCBT※¹化に向けた試行・検証の実証校としてMEXCBTを活用した問題に取り組み、関心をもったため、令和4年度の教育課程実践検証協力校E-Assessmentに関する国語の協力校に申し込み、MEXCBTの問題作成に取り組みました。

2. 独自作成問題を使ってどのような授業を行ったか教えてください。

- 小学校6年国語「みんなで楽しく過ごすために」の確認テストとして位置付け、1単位授業の中で活用しました。

【45分間の授業の内訳】

5分：これまでの学習を振り返り、学んだことを確認する

20分：CBT形式の確認テストに取り組む

5分：各自で結果を確認した後、正答問題を全体で共有する（Googleformsで集計）

10分：間違えが多かった問題について、間違えた理由や解決方法をグループで検討する

5分：本時と単元全体の振り返りをする

- テスト結果が即座に分かる利点を生かし、児童が間違えやすい問題を把握して、学級全体でつまづきを解消するための学習に取り組むことができました。

3. 問題を作成する際に、工夫した点、苦勞した点、感想等があったら教えてください。

- CBT形式の問題だからこそできる出題方法を模索した結果、**動画や音声を活用することになりました。動画や音声を活用したテストが実施できる単元を検討した結果、話合いが中心となる本単元を選びました。**
- 問題は、動画で話合いの様子を見て、適切な言葉を選ばせることとし、自動採点できるようにしました（右図参照）。
- 国語は著作権を考慮しながら問題作りを進める必要があります。今回作成した問題では、話合いのテーマやシナリオを教員8名で、会議を行い作成しました。

4. MEXCBTを使ってみての児童、先生等の反応を教えてください。

- 児童の感想から、「動画を何度も見直しながらか、楽しくテストに取り組むことができた」、「文字で書くよりも文字入力の方が速くできた」等の意見が挙げられました。一方で、目や耳が疲れたという声も聞かれました。
- MEXCBTを活用することで、データベースにアクセスして様々な問題に取り組むことができました。児童の学力の実態や学習意欲に応じて、個に応じた指導の充実のために活用していきたいです。
- CBT形式の問題を協働的な学習の中で活用するためには、どのような形式がよいか検討しました。そのような問題が充実してくると、活用の幅が広がっていくと思います。

5. 今後の展望、文科省へのご要望等※²ございましたら教えてください。

- 問題作成から、公開までの手続きが簡略になると、手軽に問題を作成し活用しやすくなると思います。
- 教師側で児童のテスト結果を確認する際、個々の設問ごとの正答率が表示される※³と、児童にフィードバックしやすくなると思います。

次の動画は、先ほどの話合いの続きです。あとの問いに答えましょう。

佐野小学校が自慢できる良いところとは、具体的にどのようなところですか？



問題6
鈴木さんは小池さんの話を聞いた後、次のように発言しました。次の()に当てはまる言葉として最も適切なものを、次の中から一つ選びましょう
鈴木さん
「私は、小池さんの話を聞いて(選択肢)。なぜなら、正解しても間違っただとしても、楽しめるアイデアを出しているからです。」

独自作成問題 小学校6年国語
「みんなで楽しく過ごすために」の一部
※吹き出し部分の音声は先生方が演じています



MEXCBTを活用した授業に取り組む児童の様子

※1 CBT=Computer Based Testing コンピュータを使用した調査。 ※2 文部科学省では、いただいたご意見やご要望を参考に、順次、MEXCBTの改善を進めています。 ※3 MEXCBTの結果の表示方法は学習eポータルにより異なります。また、学習eポータルの種類は設置者により異なります。

MEXCBT及びその周辺環境の方向性（イメージ）

■ MEXCBT

- 公的なC B Tプラットフォームとして、デジタル学習の基盤的な仕組み
- 利活用者、事業者を超えて相互に利活用が可能な汎用的な仕組み
→ 問題・データや知見等の相互利活用（教育D X）

■ 学習eポータル、学習コンテンツ等

- 協調領域（ポータル間、ツール間の互換性）と競争領域（各社の創意工夫）を組み合わせ、個別最適な学び・協働的な学びにつながる発展・充実

拡張システム

- ・ 記述式自動採点システム
- ・ アダプティブシステム 等

試行

学習コンテンツ

- ・ デジタル教科書・教材
- ・ ドリル教材 ・ 動画コンテンツ 等

順次連携

CBTシステム (MEXCBT)

問題バンク

学習 eポータル

- ・ 個人ごとの学習の窓口機能
- ・ ツール等との連携のハブ機能
- ・ MEXCBTへの接続機能

追加

搭載問題

教師

教育活動の実践
家庭学習のサポート

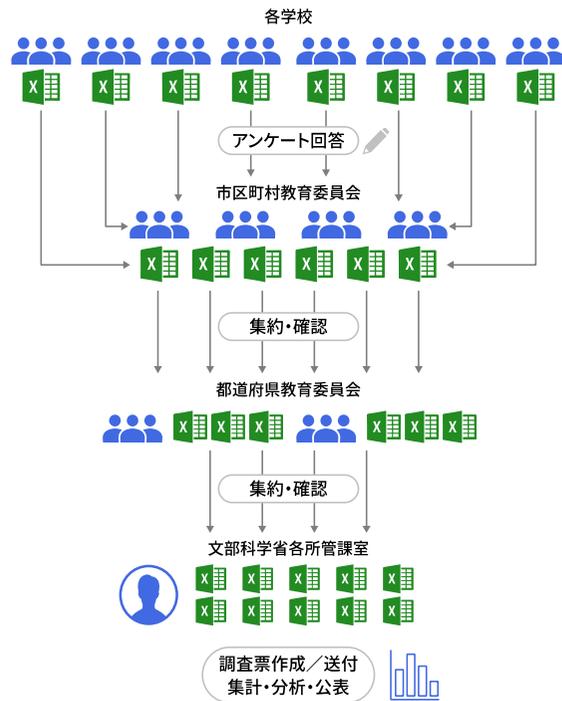
児童生徒

「文部科学省WEB調査システム」(EduSurvey)

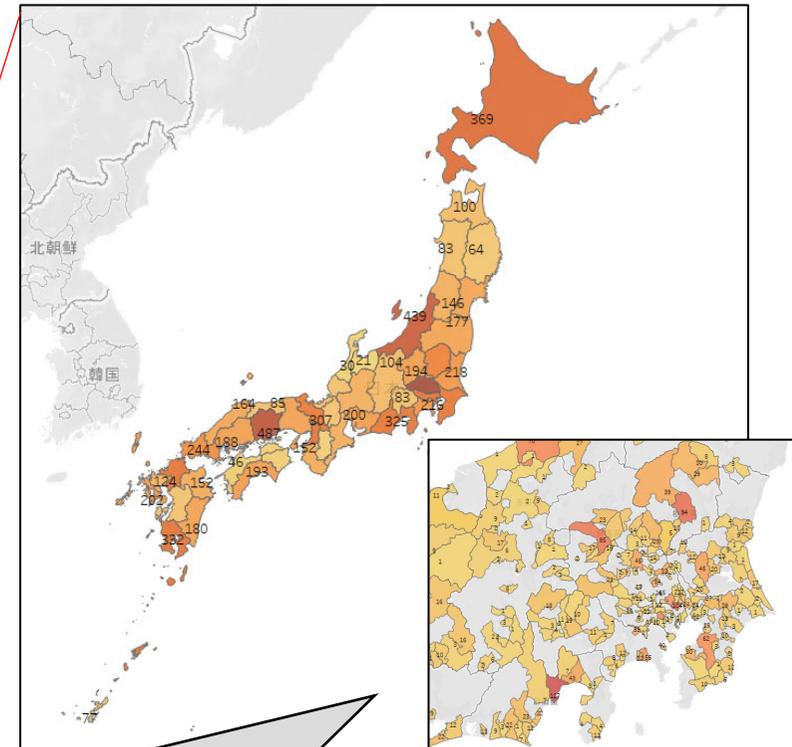
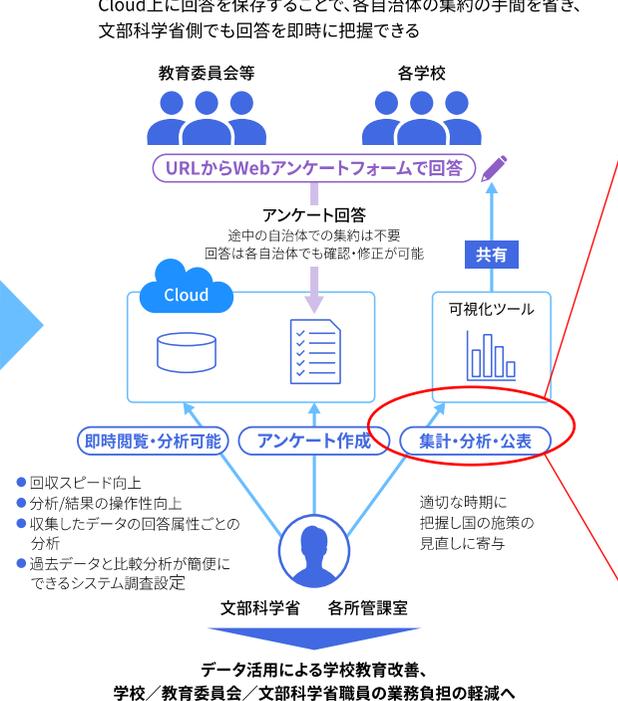
- 効果的・効率的な政策立案のためには、**各学校（小・中・高・大学等）の状況を効率的かつ迅速に把握することが必要。**
- 教育委員会や学校等を対象とした調査において、クラウド上で回答することによる**調査集計の迅速化、統合作業の削減による教育委員会等の負担軽減にも資するシステム**を開発・運用。
- 学校現場や教育委員会からも調査結果の自動集約や即時的な可視化・分析や利活用のニーズが高い。

EduSurveyの導入で調査・集計が素早く簡便に

導入前 例：アンケート調査フローイメージ（初等中等教育段階の場合）



導入後 ツール導入後のアンケート調査フローイメージ（初等中等教育段階の場合）
Cloud上に回答を保存することで、各自治体の集約の手間を省き、文部科学省側でも回答を即時に把握できる



分析ツールと組み合わせ、素早く可視化、結果分析可能。複数の調査結果のかけ合わせも容易に

「文部科学省WEB調査システム」(EduSurvey)

- 令和4年度においては40件の調査を試行、令和5年度は約80件の調査を実施予定。
- 今後は、調査結果をクラウド上で分析・可視化できる機能を追加し、使い勝手を向上させる予定。

EduSurveyを使って実施済・実施中の主な調査
令和4年度は40調査で活用、
令和5年度は7月現在すでに23調査で活用中

- ・R4副教材配布冊数等調査
- ・ウクライナから日本に避難した子供の学校への受入状況について
- ・新学期における公立学校臨時休業状況調査
- ・バス送迎に当たっての安全管理に関する緊急点検

✓ **業務負担軽減の効果：担当者の**
約6割が負担軽減を実感

幼稚園～高校まで、計5万校を
対象とする大規模調査も実施



**調査フローが
簡略化した！**



**問い合わせや
連絡調整が減
少した！**



**回答方法が
簡便！**

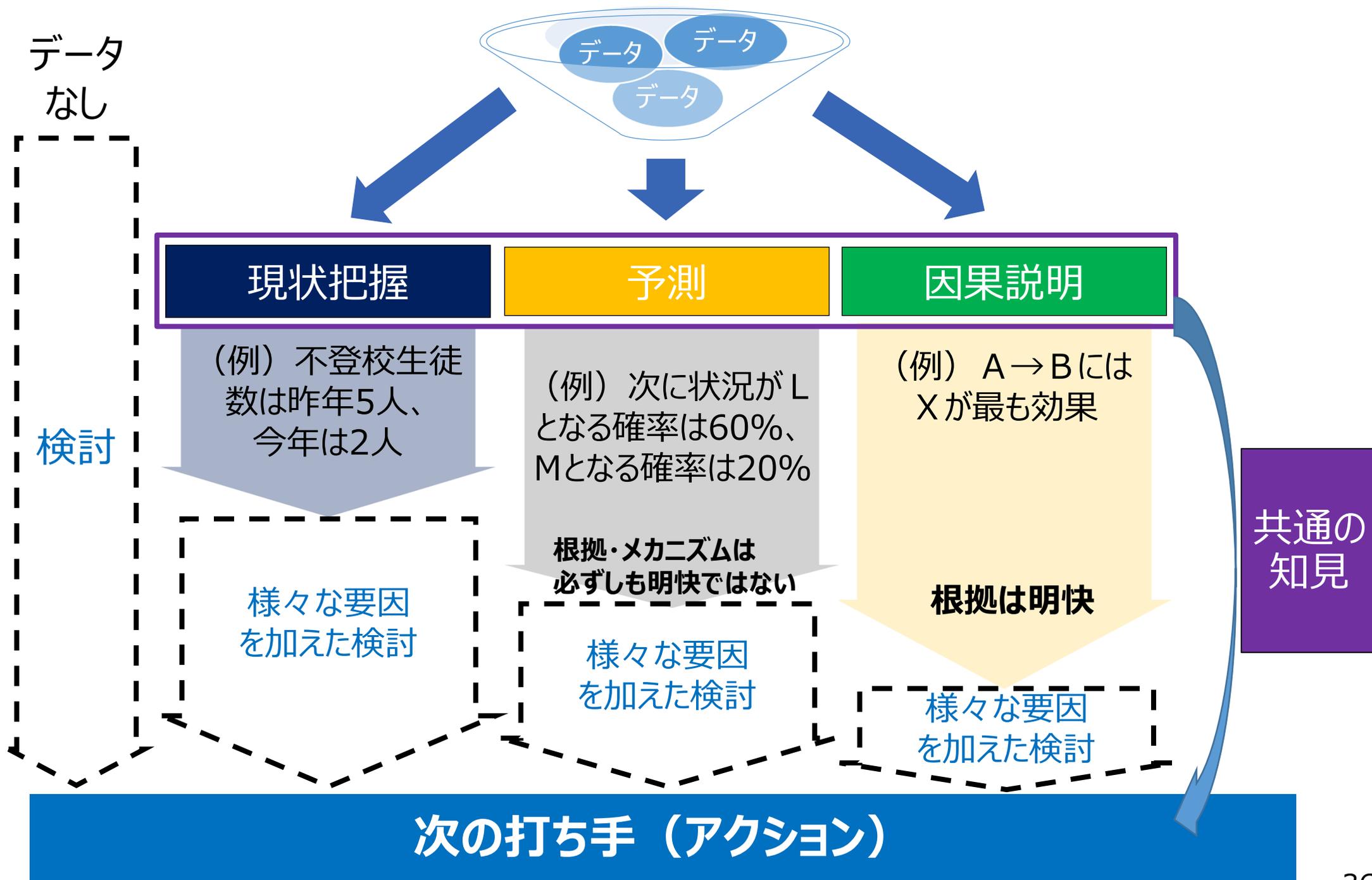
4. 教育データの分析・利活用の推進

データの分析、知見の共有



行政・教育現場の次のアクション

教育データの分析からアクションまで



事例 1：京都市 協働学習における先端技術・教育データの活用

- 児童生徒一人一人の発話内容等を可視化することにより、的確な評価につなげ、教員の指導改善に生かす。
- 従来の発想にとらわれないグループの組み合わせがシステムから提案される場合は、教員の新たな知見・気づきにつながる。
- 児童生徒に、授業中の発話内容、発話量等のデータをフィードバックすることで児童生徒自身に気づきを与え、主体的な学びに繋げる。

活用した先端技術

- 音声データの解析・可視化機能：児童生徒ごと、グループごと、クラス全体の発話量や内容等を確認できる。
- AI分析：グループ人数やパラメータ等をインプットすると、システムが最適と判断したグループを自動生成できる。

児童生徒



僕はこうやって話しているのか
次はもう少し工夫してみよう

教員



グループ内のA君が全く発言していない
声かけてみよう

授業分析画面（個人）



授業分析画面（グループ別）



事例 2 : 埼玉県 個別指導における先端技術・教育データの活用

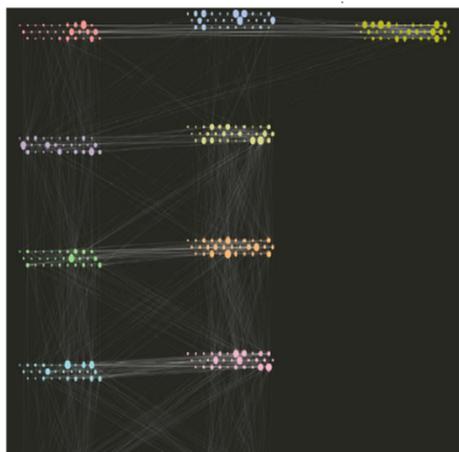
- 県に蓄積されたビッグデータと学校が保有するデータをAIで分析し、**子供の学習のつまずきの把握や、将来の学力の状況などを予測**。教員が分析結果を、**授業づくりや学級経営、個人面談などで活用**し検証。
- 埼玉県学力・学習状況調査（県学調）は、パネルデータ・IRTを活用し、**一人一人の学力の伸び（変化）を継続して把握**することが可能。

活用した先端技術

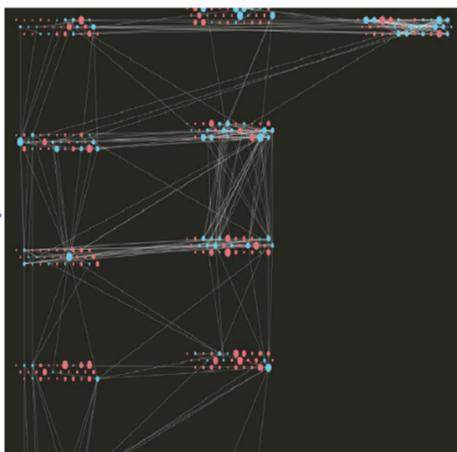
- AI分析：県学調の問題間のつながりを可視化、個別の児童生徒の正誤情報をマッピングし、どの問題でつまずいていたかを抽出。

つまずき分析モデルビューワーシステム画面

AI分析によって得られた、県学調の問題間のつながりを可視化するビューワーを作成

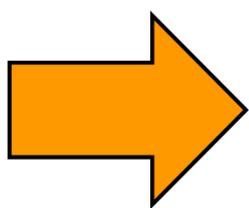
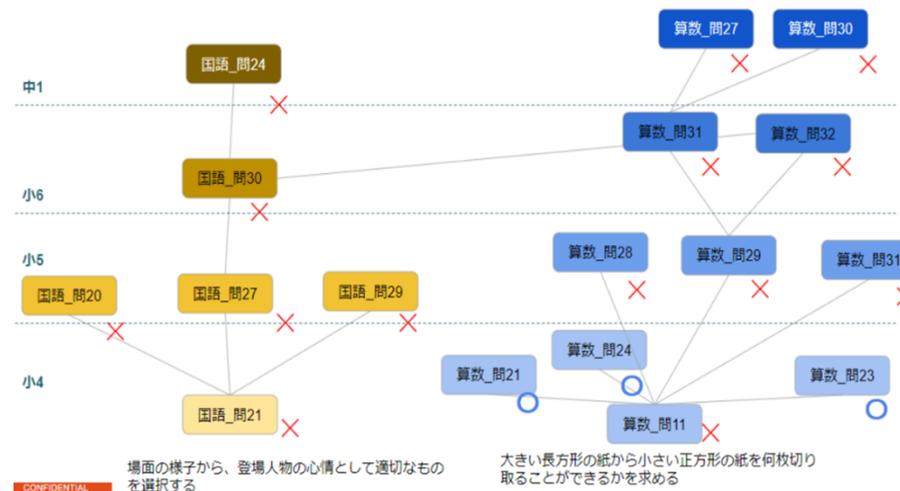


個別の児童生徒の県学調の正誤情報をマッピングし、児童生徒それぞれに対して県学調のどの問題でつまずいていたかを抽出



つまずき分析抽出後イメージ図

実証校(中学校1年生)の実際につまずき要因分析を実施し、一部を抽出



- つまずき箇所について、一定の納得感を得られた
- 過去学年の学習に取り組む際にも、保護者の理解が得やすくなる

事例3：箕面市 教師の研修支援における先端技術・教育データの活用

- 授業中の教職員の行動（板書、机間巡視）や、児童生徒の行動（挙手、視線）を可視化・分析することにより、教師自身の授業の振り返りなど授業改善に活用できる。
- 客観的な授業解析結果として、研究授業での教師に対するフィードバックに活用できる。

活用した先端技術

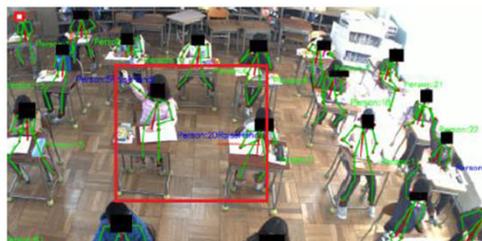
- 行動解析プラットフォーム：教職員や児童生徒の発話比率や行動を可視化できる。

[教職員の行動]



教員の板書行動を検知

[児童生徒の行動]



児童生徒の挙手行動を検知

授業の振り返り



A君はあまり黒板の方を
向けていないな
きちんと理解できたか聞いて
みよう

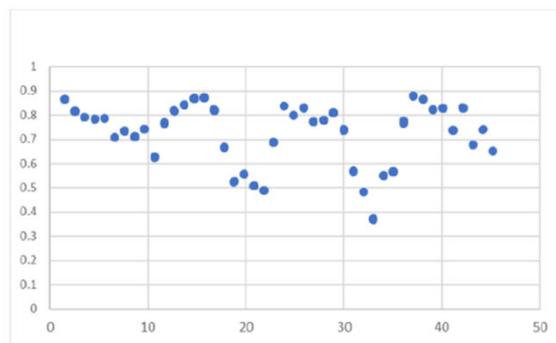
研究授業



B君の机にはあまり立ち
寄っていないので
もっとケアしてあげる必要
がありますね



教員の机間巡視の軌跡を可視化



前を向いている人の割合を可視化

データの利活用の例（令和5年度全国学力・学習状況調査より）

○家庭の社会的経済的育養(SES: Socio-Economic Status)*が低い児童生徒ほど、各教科の正答率が低い傾向が見られる。

○しかし、「主体的・対話的で深い学び」に取り組んだ児童生徒は、SESが低い状況にあっても、各教科の正答率が高い傾向が見られる。

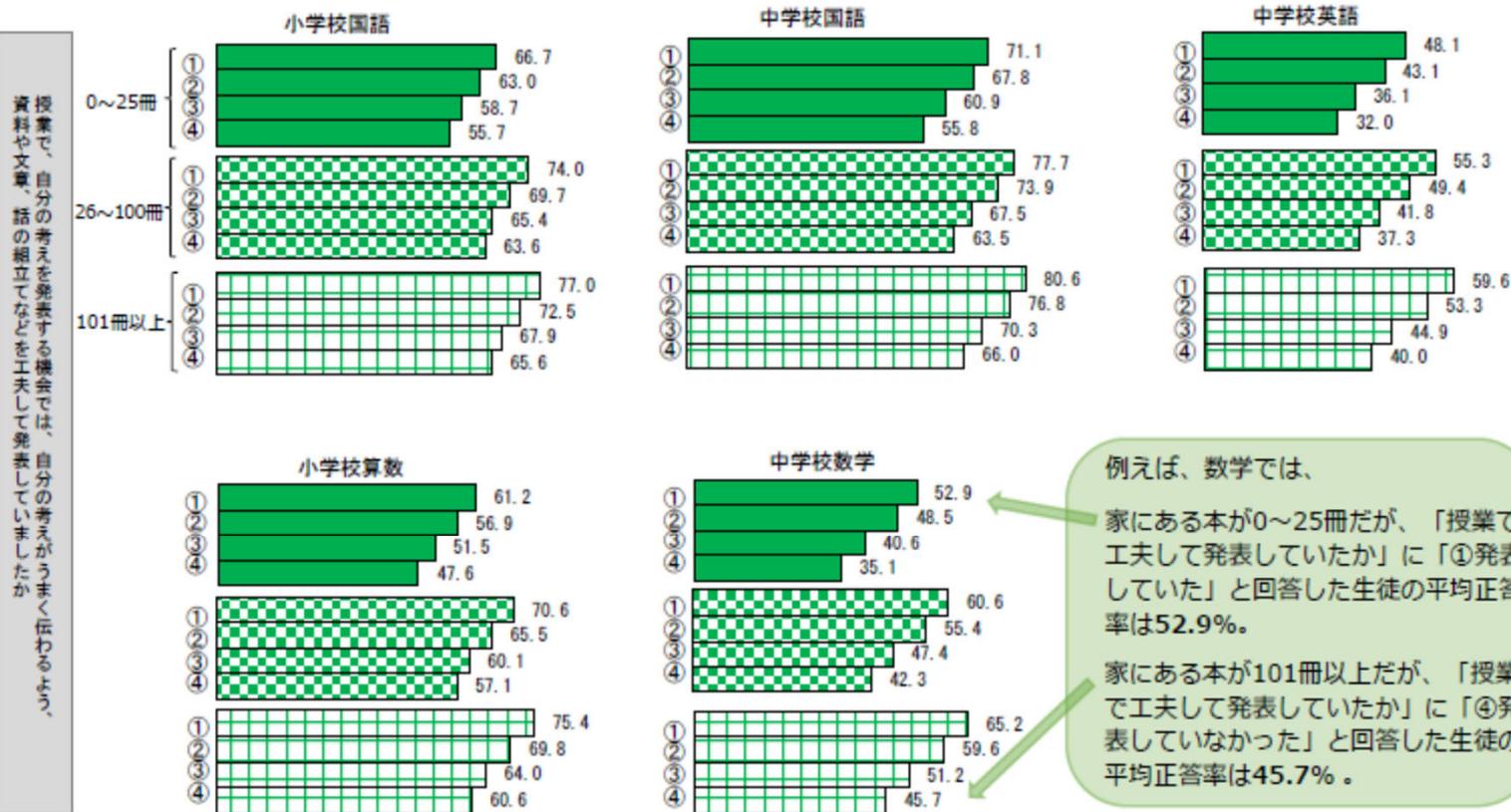
* 本資料では、国際学力調査も参考に、「家にある本の冊数」を家庭のSESの代替指標として用いている。

三重クロス集計

「家にある本の冊数」 × 「授業で工夫して発表していたか」 × 「各教科の平均正答率」

■ 0~25冊 ■ 26~100冊 □ 101冊以上

①発表していた ②どちらかといえば、発表していた ③どちらかといえば、発表していなかった ④発表していなかった



授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の網立てなどを工夫して発表していましたか

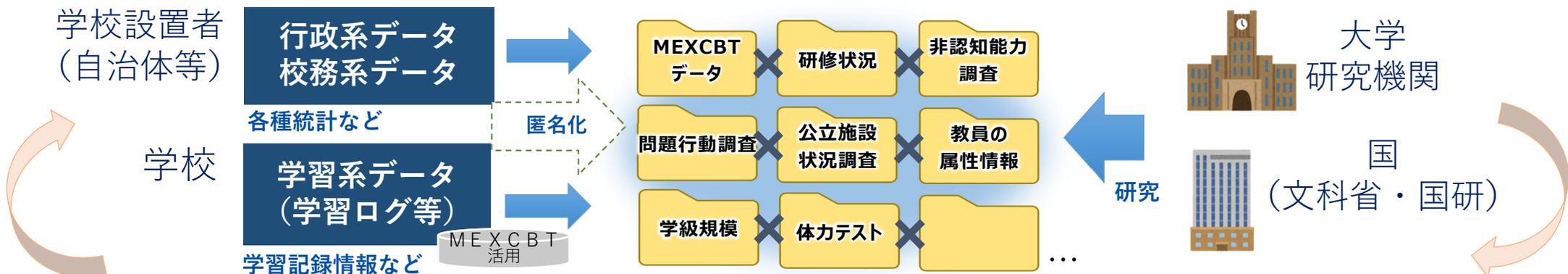
例えば、数学では、

家にある本が0~25冊だが、「授業で工夫して発表していたか」に「①発表していた」と回答した生徒の平均正答率は52.9%。

家にある本が101冊以上だが、「授業で工夫して発表していたか」に「④発表していなかった」と回答した生徒の平均正答率は45.7%。

(※) 他の「主体的・対話的で深い学び」に関する設問においても同様の傾向が見られる。

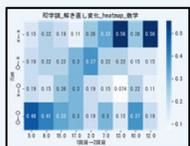
教育データ利活用の可能性（イメージ）



一次利用

個別最適な学びの実現

MEXCBTデータ × 学習ログ



・ラーニングアナリティクスの観点で分析することで、児童生徒が「どのような知識を」「どこまで」理解・習得したかについて把握



児童生徒

フィードバックによると、私はこの章の理解が不十分らしい。サジェストされた、関係する問題を解いてみよう。

児童生徒のリスクの事前発見

問題行動調査 × 福祉部局データ × MEXCBTデータ

・テスト正解率や回答時の動態を分析することで、長期欠席する児童生徒が発生する学校の予測分析

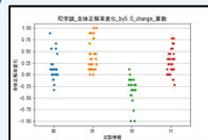


自治体等

この学校は不登校が発生するリスクが上昇しているぞ。SCの訪問日程を増やす等のプッシュ型支援を行おう。

児童生徒のつまずきポイントの明確化

学習ログ × 学習ログ



・Itemごとに正誤が変化する際の全体正解率変化割合の差分を比較することで、全体正解率に最も影響を及ぼしている問題を発見



教師

できた子とできなかった子の差は、この問題によく現れているんだ。明日はこの問題の類似問題を取り上げよう。

児童生徒の特性に応じた家庭での配慮

学習ログ × 心理検査 × 体カテスト

・学校での学習の動態や心理検査の結果を分析することで、児童生徒の生活や学習における特性を把握し、保護者に伝達



保護者

うちの子には、共感性が高いという特性があるんだ。具体的には、家庭ではこんな接し方をしたらいいんだな。

二次利用

政策立案に生きる分析

MEXCBTデータ × 質問紙調査 × 学級規模等

・学級規模と児童の質問紙等について分析することで、学校の望ましい教育環境や指導体制の在り方の検討に活用

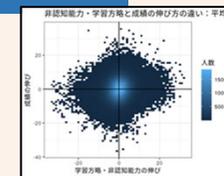


国

35人学級を進めることで〇〇といった効果があると考えられるのか。次の政策立案に生かしていこう。

未来の教育の在り方に向けたデータの蓄積

質問紙調査 × MEXCBTデータ



・非認知能力の伸びと成績の伸びの関係を調査し、今後の教育政策について提案

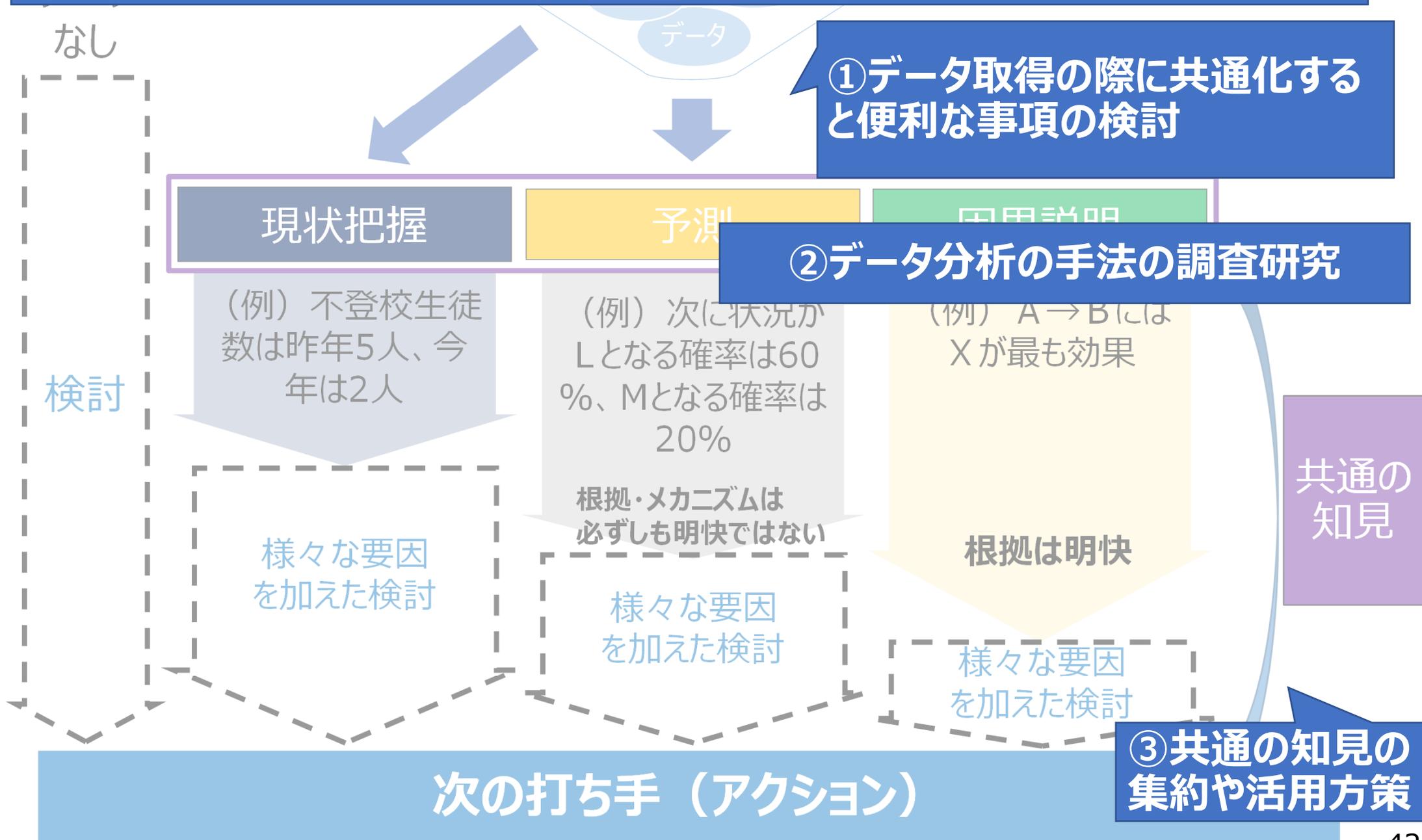


研究者

非認知能力の伸びと成績の伸びに因果関係が説明できたぞ。非認知能力を伸ばしていくための政策を提案しよう。

データ利活用を進めるため実施している調査研究等

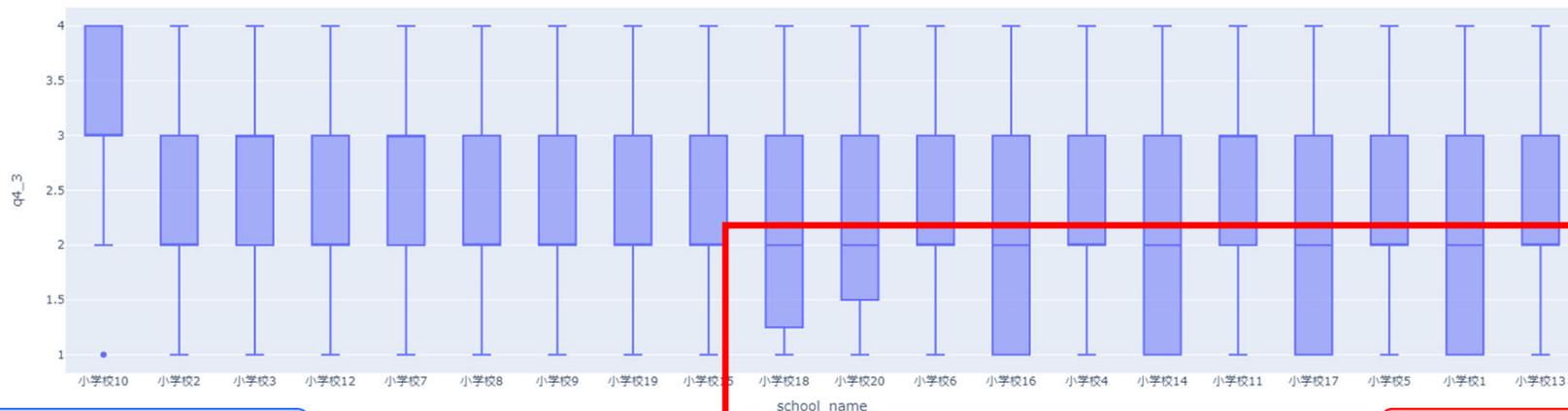
④安全・安心にデータ利活用をする上で必要な留意事項の検討



②教育データの分析手法、活用モデルの実証

教育データ利活用のための分析手法の調査研究や分析活用モデルの実証を実施

○イライラする頻度×不登校の発生割合の分析（例）

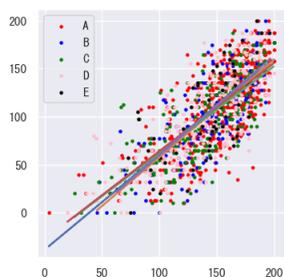


不登校の発生割合低い

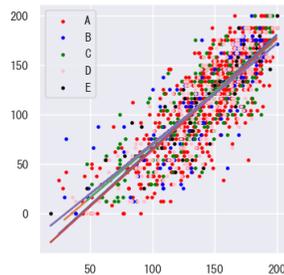
不登校の発生割合高い

○学級満足度状況×学力調査の分析（例）

1回目調査

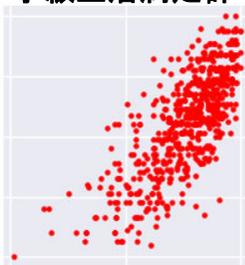


2回目調査

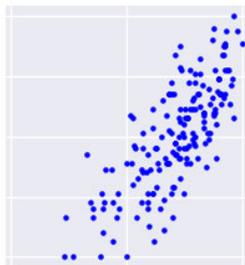


群別表示

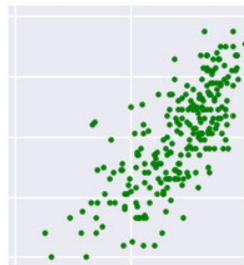
学級生活満足群



非承認群



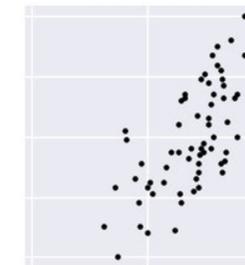
侵害行為認知群



学級生活不満足群



要支援群



④安全・安心にデータ利活用をする上で必要な留意事項の検討

○「教育データの利活用に係る留意事項（第1版）」概要

○背景・経緯

教育委員会・学校において教育データの利活用が進む中で、セキュリティや個人情報等に関して心配の声があることを受け、「教育データの利活用に関する有識者会議」の議論を踏まえて、学校や教育委員会が参考とできる留意点を整理し、文部科学省より、令和5年3月に「教育データの利活用に係る留意事項（第1版）」を公表。



（心配の声の例）

- ✓セキュリティの確保等データの安全管理
- ✓在学時のデータの、卒業後の取扱い
- ✓本人の望まない形でのデータ利用

データがどのように扱われるか
分からない
何がOKなのか分からない
何が法令に抵触するのか
分からない

不安で利活用がしづらい

留意事項

やってよいこと

議論が必
要なこと

やってはい
けないこと

安心して利活用

教育データの利活用に係る留意事項（第1版） 概要

https://www.mext.go.jp/a_menu/other/data_00007.htm

★総論編（教育データを利活用する際に気を付けること）

教育データを利活用する際に気を付けることについて、（1）個人情報の適正な取扱い、（2）プライバシーの保護、（3）セキュリティ対策の3つの観点から、図等を交えながら解説をしています。

（1）個人情報の適正な取扱い

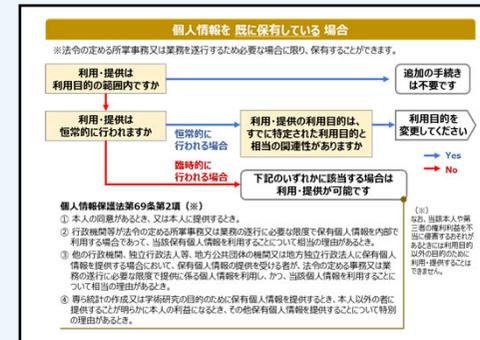
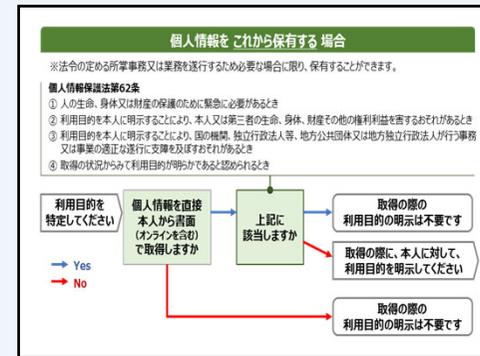
- 教育委員会・学校における個人情報とは
- 個人情報をこれから保有する場合に必要な手続きについて
- 個人情報を既に保有している場合に必要な手続きについて
- 個人情報の取扱いの委託について
- 個人情報等利用における体制及び手続上の留意点

（2）プライバシーの保護

- プライバシーの保護において、個人情報保護法を遵守するのみならず、必要となる体制の構築等について

（3）セキュリティ対策

- 主に地方公共団体が設置する学校を対象とした教育情報セキュリティポリシーの策定や見直し
- 組織的・人的・物理的など、多様な安全管理措置



★Q&A編 （よくあるご質問）

個人情報保護やセキュリティ等について、教育委員会・学校からよく寄せられる質問をピックアップし、掲載しています。

【Q&Aの例】

Q（4）新たな学習用ソフトウェアを契約・導入するときは、どのようなことに気を付ければよいですか。

【回答】

契約の際には、学習用ソフトウェア提供事業者の契約書、利用規約、個人情報保護に関するポリシー等で、学習用ソフトウェアの安全性や信頼性、個人情報の取扱いに関する規定等を確認する必要があります。

また、学習用ソフトウェア提供事業者に、児童生徒を本人とする個人情報の取扱いを委託するに当たっては、個人情報保護法を遵守する必要があります。

※その他、コラムにおいて、教育データの利活用の参考となる考え方や、ELSI（科学技術の社会実装に際しての倫理的・法的・社会的課題）についても紹介しています。

※今後、教育データの利活用が進むにつれて、新たな課題や論点についての議論が深まっていくことが想定されるため、その際は改訂を行う予定です。

5. おわりに



背景・課題

- 国全体で教育DXによる学びの環境を実現するには、教育データの利活用に必要な知見や成果を共有することができる**基盤的なツールを文部科学省が整備する必要**がある。
- また、基盤的なツールの活用により蓄積されたデータが効率的・効果的に活用されるためには、**教育データの相互運用性を確保するためのルールの整備、教育データの利活用を行う際の安全・安心の確保**、そして、**国や自治体によるデータ分析と分析に基づくアクションの実行**を並行して実践していくことが重要である。



事業内容

(1) 文部科学省CBTシステム (MEXCBT) の改善・活用推進 (1,178百万円 運用820百万円/開発348百万円)

- **文部科学省CBTシステム (MEXCBT : メクビット)** を、希望する全国の児童生徒・学生等が、オンライン上で**学習・アセスメントできる公的なCBTプラットフォーム**として提供し、デジタルならではの学びを実現。
※令和2年から開発を実施。令和5年6月時点、約25,000校、800万人が登録。
- **令和6年度の全国学力・学習状況調査の生徒質問紙等において活用予定**。また、**令和7年度の教科調査の悉皆実施に向けて必要な機能の拡充**を実施。
- 地方自治体独自の学力調査等のCBT化について、令和5年度は約16自治体で実施予定。**令和6年度はさらなる量的拡大及び調査内容の質の向上**を図る。



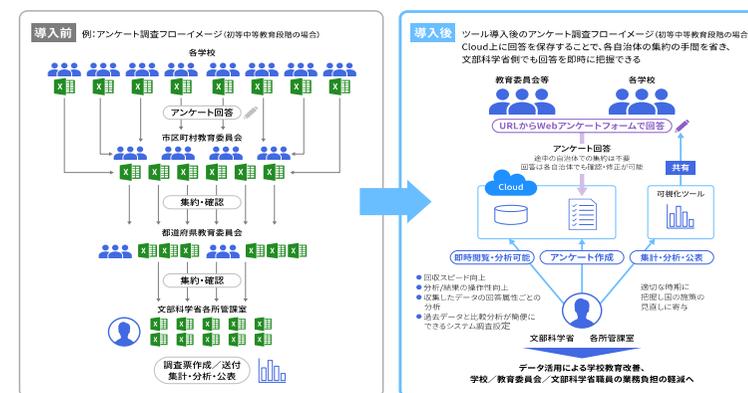
学校から

自宅から



(2) 文部科学省WEB調査システム (EduSurvey) の開発・活用促進 (125百万円)

- 文部科学省から教育委員会や学校等を対象とした業務調査において、調査集計の迅速化、教育委員会等の負担軽減にも資するシステムを開発し、令和4年度から試行。
- 調査結果の自動集約や即時的な可視化等が可能ことから、**学校現場や教育委員会からも利活用のニーズが高い**。
- 令和5年度は、約80の調査を実施予定。**令和6年度は、調査実施者や回答者のニーズを踏まえた機能の改善を実施し、約120の調査を実施**予定。



(3) 教育データの利活用の推進 (287百万円)

- 教育データ利活用に不可欠な**データ標準化の推進**やMEXCBTの解答結果等を活用した**自治体におけるデータ分析の実施促進・分析フォーマット (仮称) の活用支援**、**安全・安心の確保に向けた個人情報保護などの教育データ利活用にあたり留意すべき点の整理**、デジタル学習環境の窓口となる**学習eポータル**の適合性評価の仕組みの運用、web上の**学習コンテンツの充実・活用促進**や**オープンバッジ (学習履歴のデジタル証明)**を活用した**ネットワークの構築**に関する調査研究を行い教育現場へのフィードバックや新たな知見の創出を図る。

(担当：総合教育政策局教育DX推進室)

御清聴ありがとうございました。

教育DXの推進について

https://www.mext.go.jp/a_menu/other/data_00008.htm



文部科学省

MINISTRY OF EDUCATION, CULTURE, SPORTS,
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN